

第4章 調査結果の分析

1 定住性

-
- (1) 居住年数
 - (2) 定住・転出意向
 - (3) 定住意向理由
 - (4) 転出意向理由
-

1 定住性

(1) 居住年数

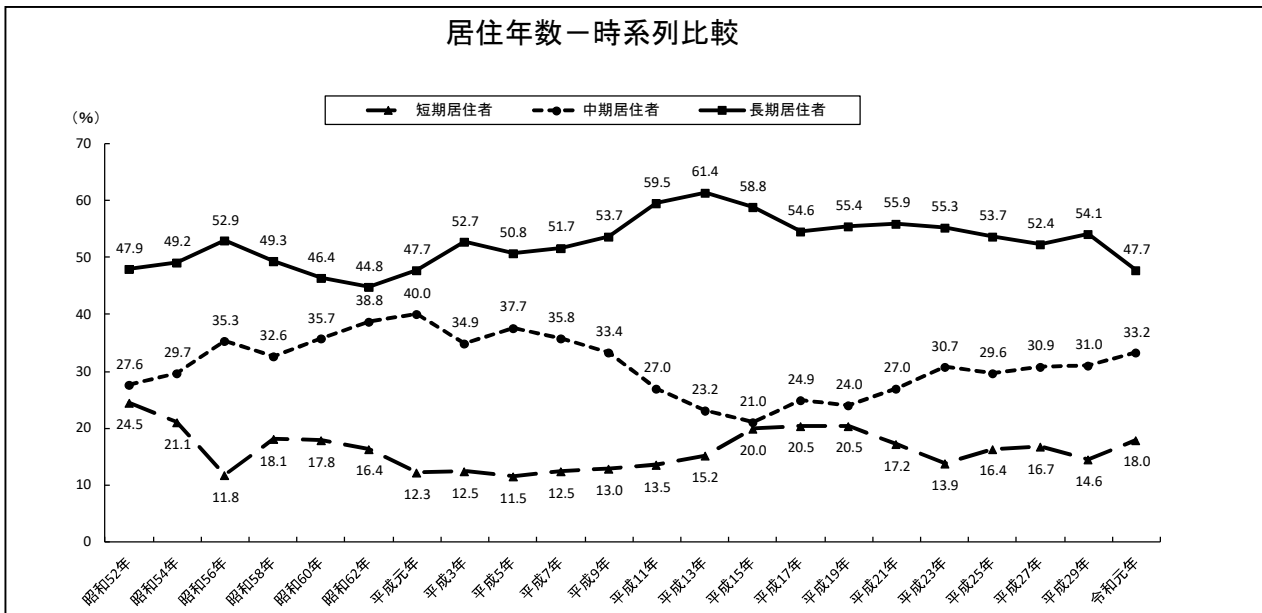
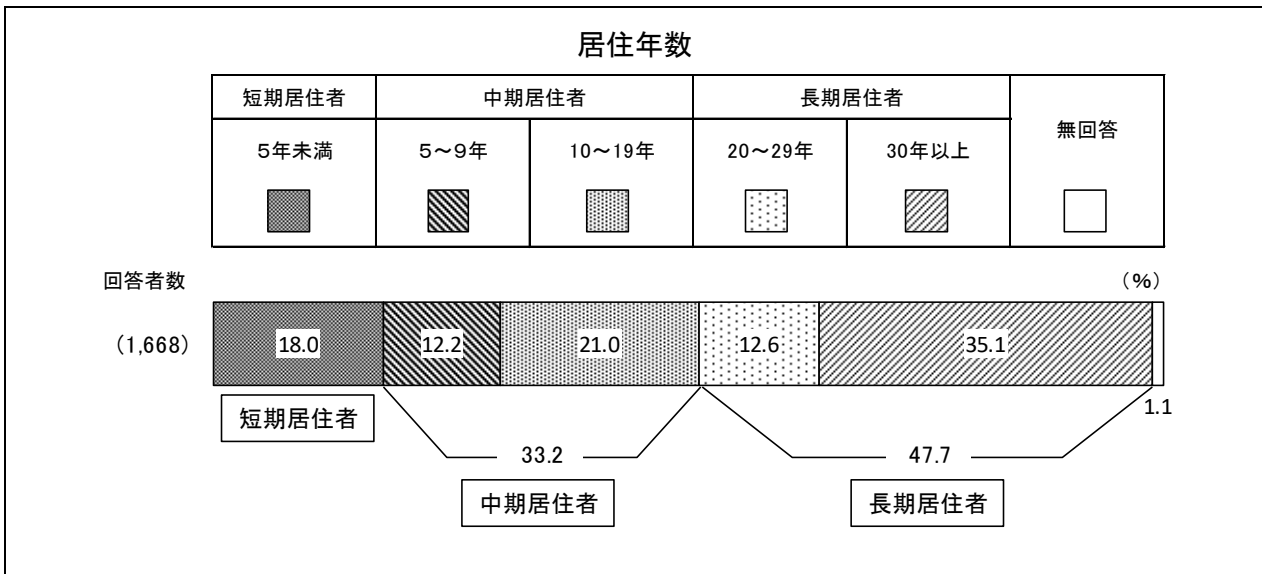
◇《長期居住者》は5割近く

問1	あなたは、江東区に住んで何年になりますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=1,688)				
1	5年未満	18.0%	4	20～29年	12.6%
2	5～9年	12.2%	5	30年以上	35.1%
3	10～19年	21.0%		無回答	1.1%

居住年数については、「20～29年」(12.6%)と「30年以上」(35.1%)の2つを合わせた《長期居住者》(47.7%)が5割近くとなっている。「5～9年」(12.2%)と「10～19年」(21.0%)の2つを合わせた《中期居住者》(33.2%)は3割を超え、「5年未満」の《短期居住者》(18.0%)は2割近くとなっている。

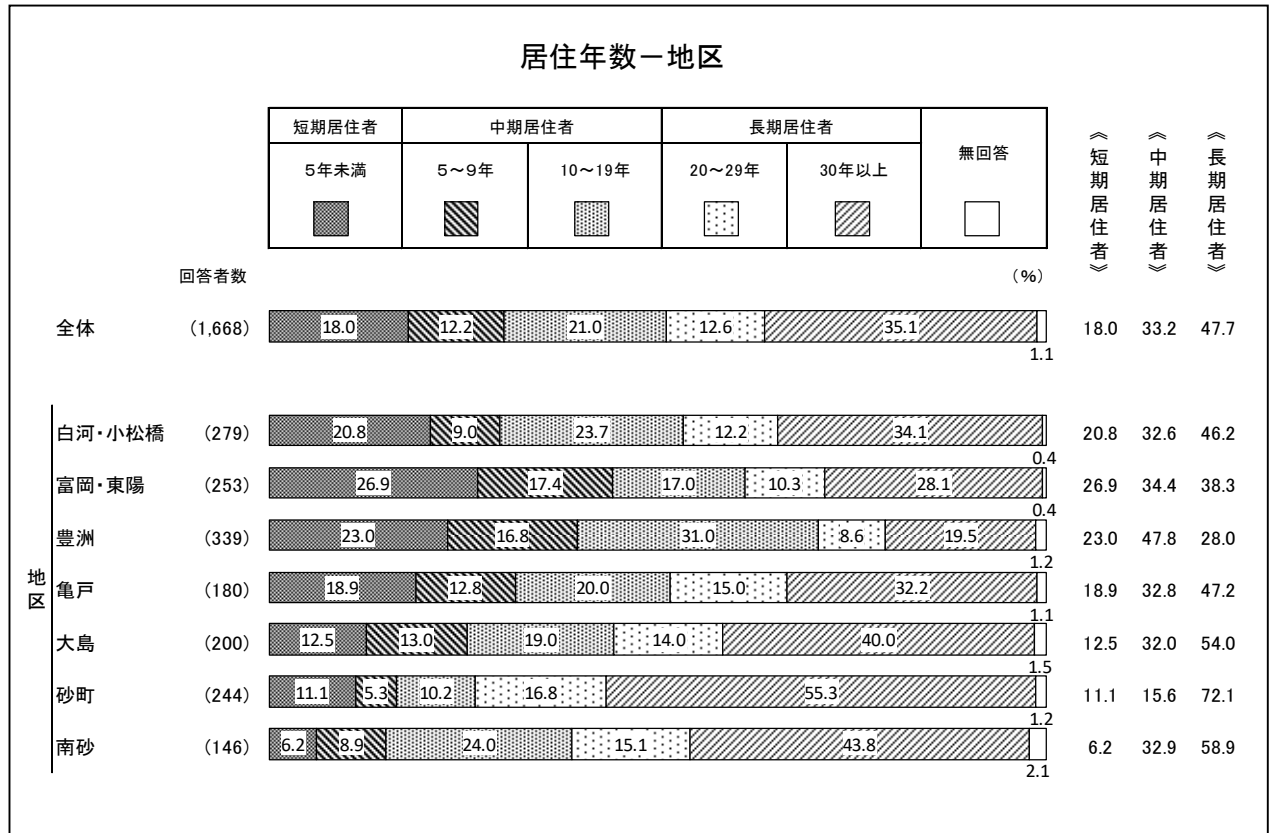
時系列の変化をみると、《長期居住者》は減少し、《中期居住者》と《短期居住者》が増加している。

1 調査結果の分析
定住性



居住年数－地区

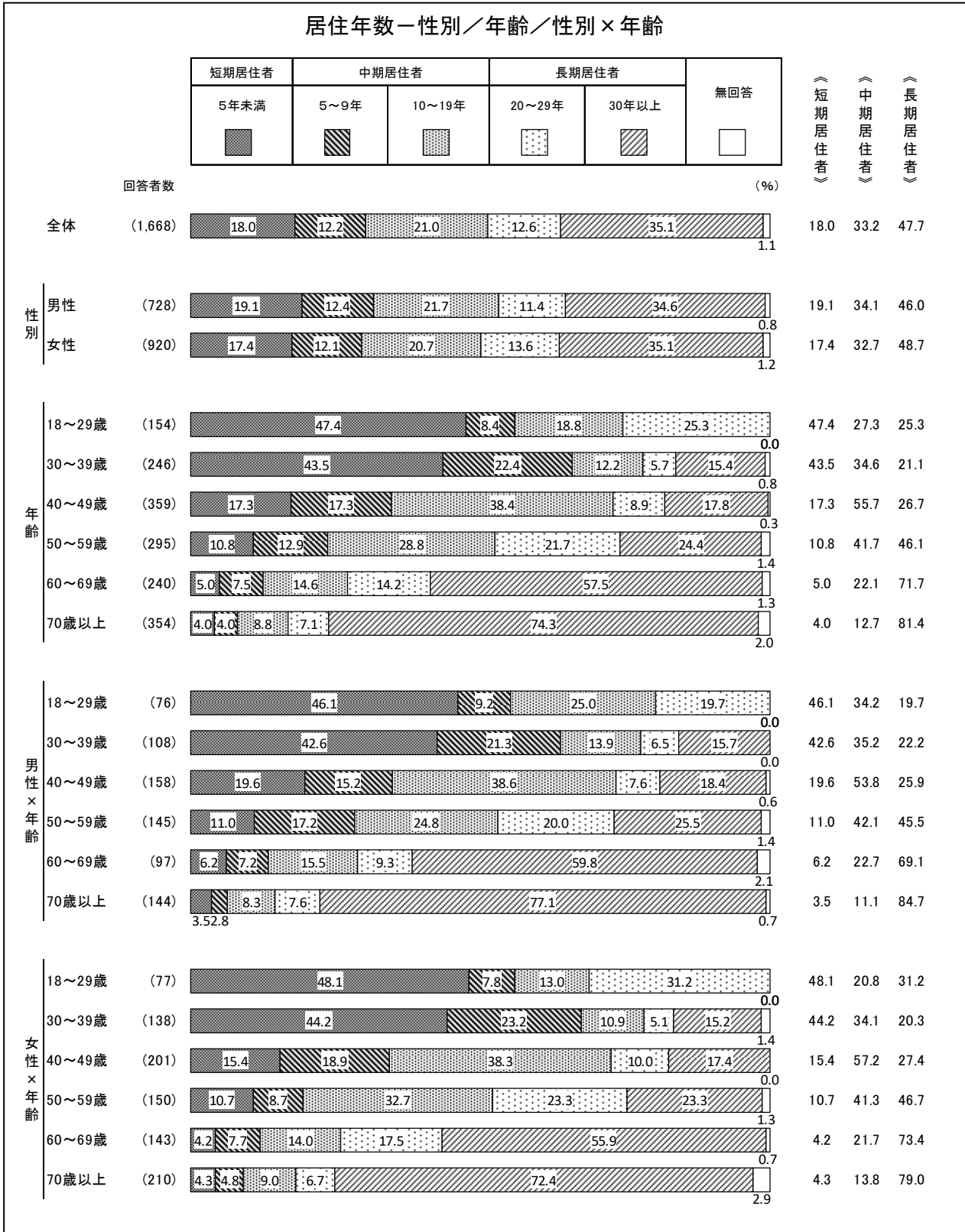
地区で見ると、《長期居住者》は砂町地区で7割を超えている。一方、《短期居住者》は富岡・東陽で3割近くとなっている。



居住年数－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、大きな差は見られない。

性別×年齢でみると、《短期居住者》は女性 18～29 歳で5割近くとなっている。《中期居住者》は女性 40～49 歳で6割近く、《長期居住者》は男性 70 歳以上で8割台半ばとなっている。



1 調査結果の分析
定住性

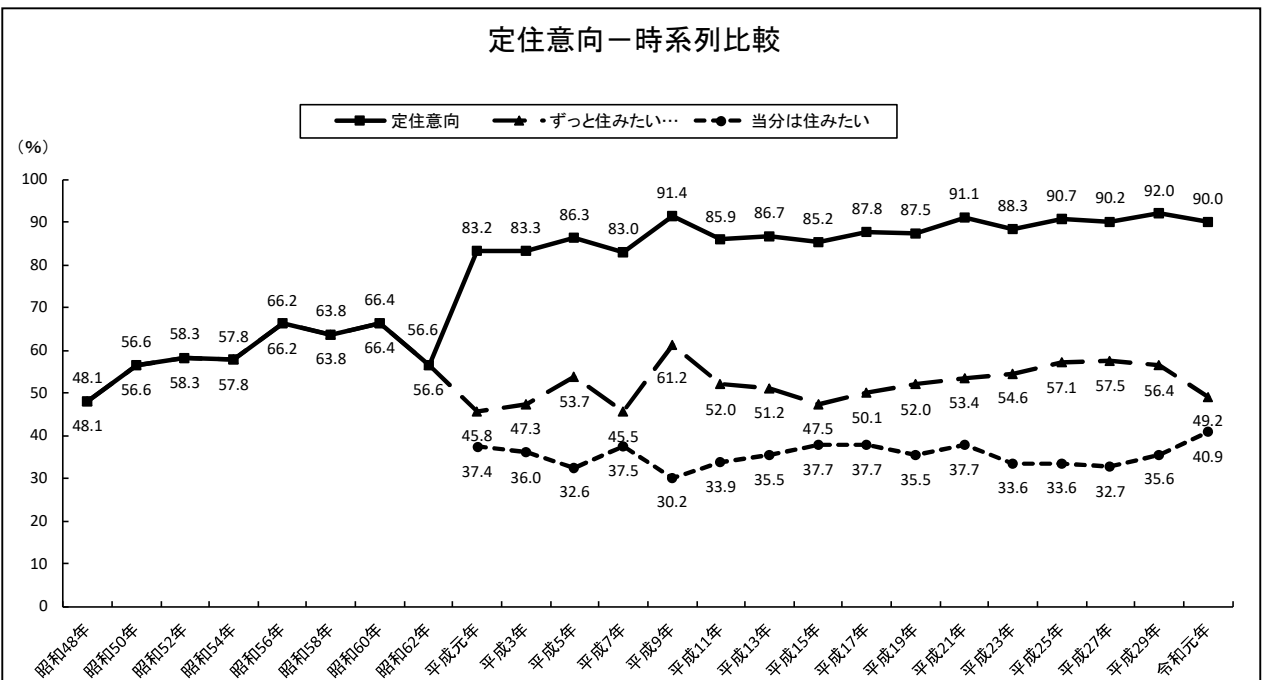
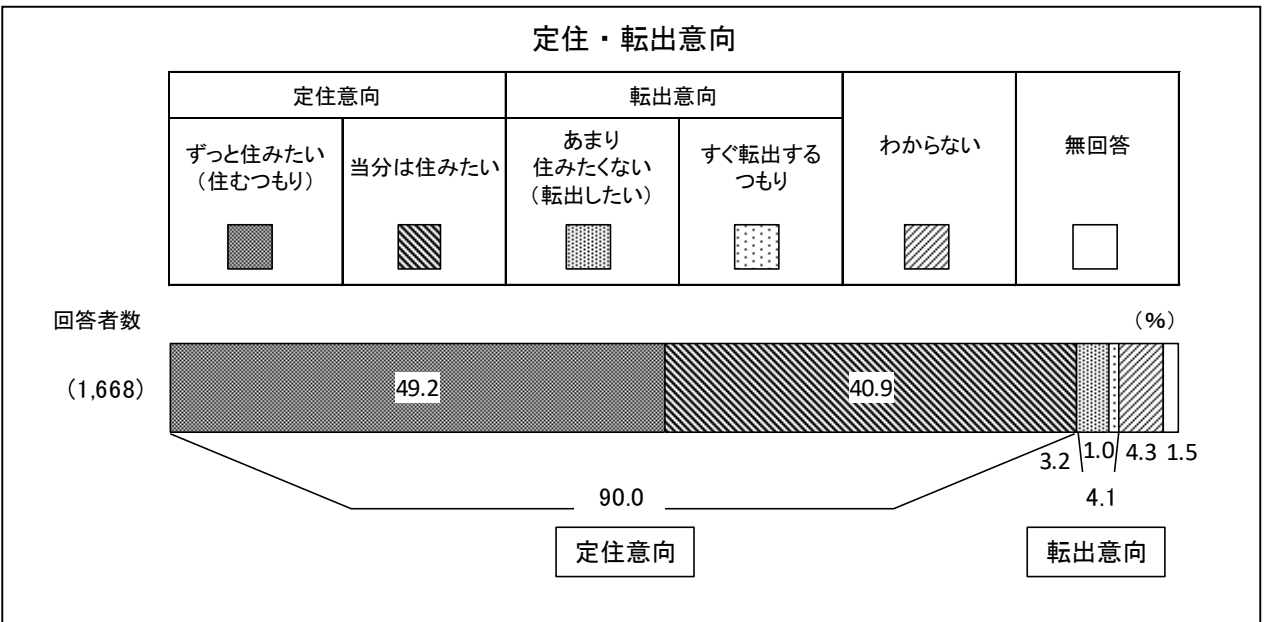
(2) 定住・転出意向

◇《定住意向》は9割

問2	あなたは、これからも江東区に住みたいと思いますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,688)				
1	ずっと住みたい (住むつもり)	49.2%	4	すぐ転出するつもり	1.0%
2	当分は住みたい	40.9%	5	わからない	4.3%
3	あまり住みたくない (転出したい)	3.2%		無回答	1.5%

定住・転出意向については、「ずっと住みたい (住むつもり)」(49.2%)と「当分は住みたい」(40.9%)の2つを合わせた《定住意向》(90.0%)は9割となっている。一方、「あまり住みたくない (転出したい)」(3.2%)、「すぐ転出するつもり」(0.1%)はわずかとなっている。

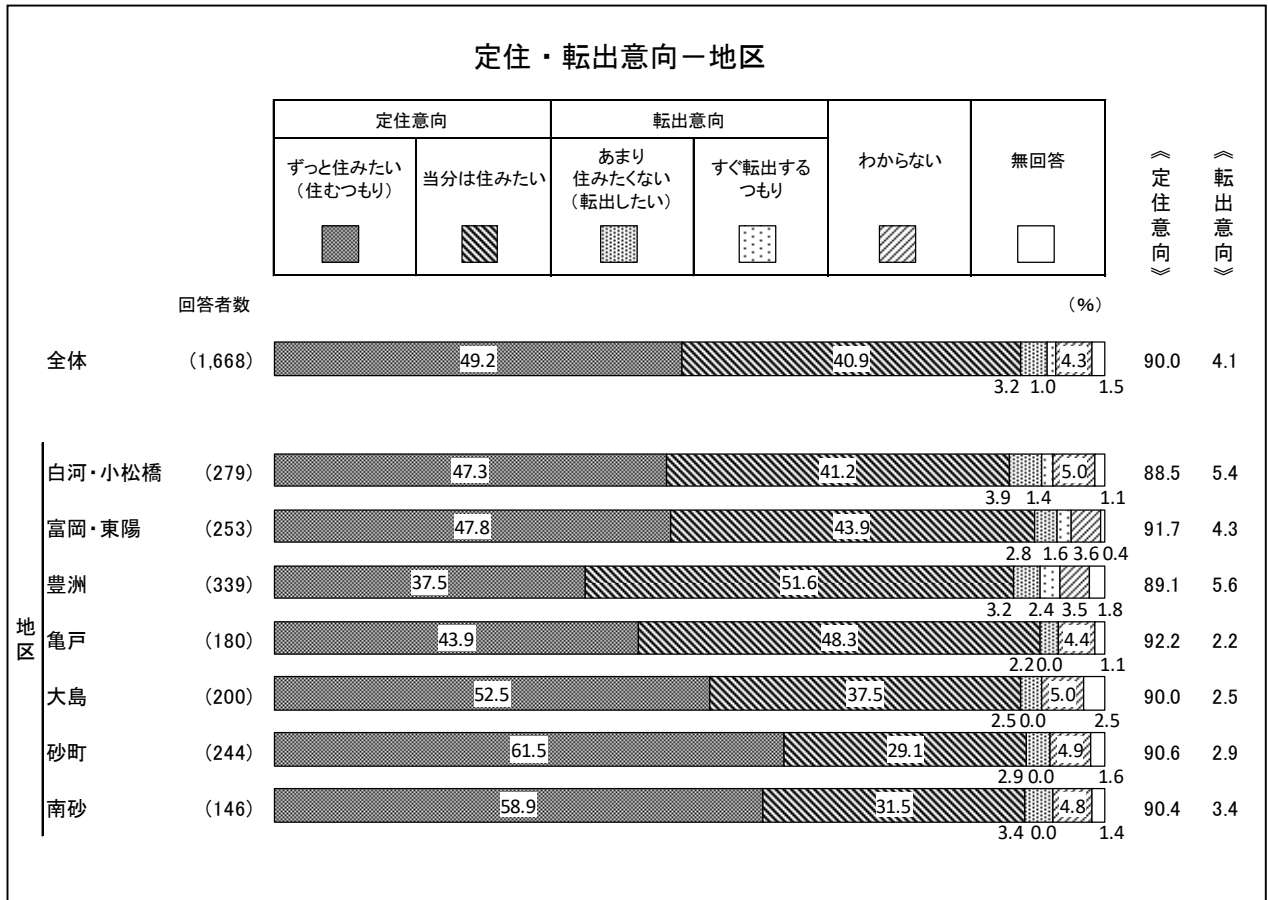
時系列の変化をみると、《定住意向》は平成25年から9割以上となっている。



第4章 調査結果の分析 1 定住性

定住・転出意向一地区

地区で見ると、《定住意向》は富岡・東陽地区、亀戸地区、大島地区、砂町地区、南砂地区で9割以上となっている。一方、《転出意向》は豊洲地区がわずかながら最も多い。

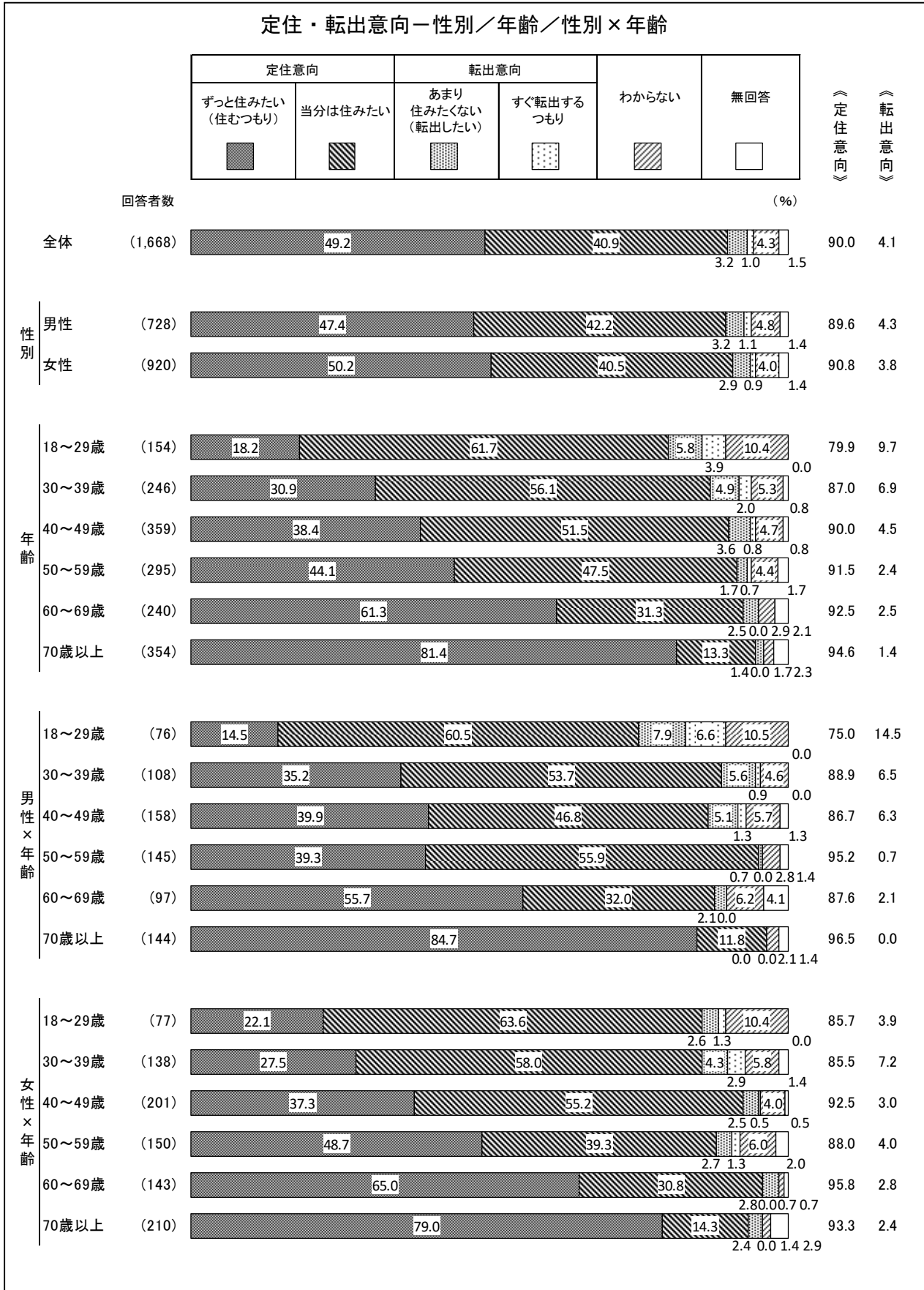


1 調査結果の分析
定住性

定住・転出意向－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は女性の方が男性より3ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「ずっと住みたい（住むつもり）」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、男性70歳以上で8割台半ばとなっている。



第4章 調査結果の分析 1 定住性

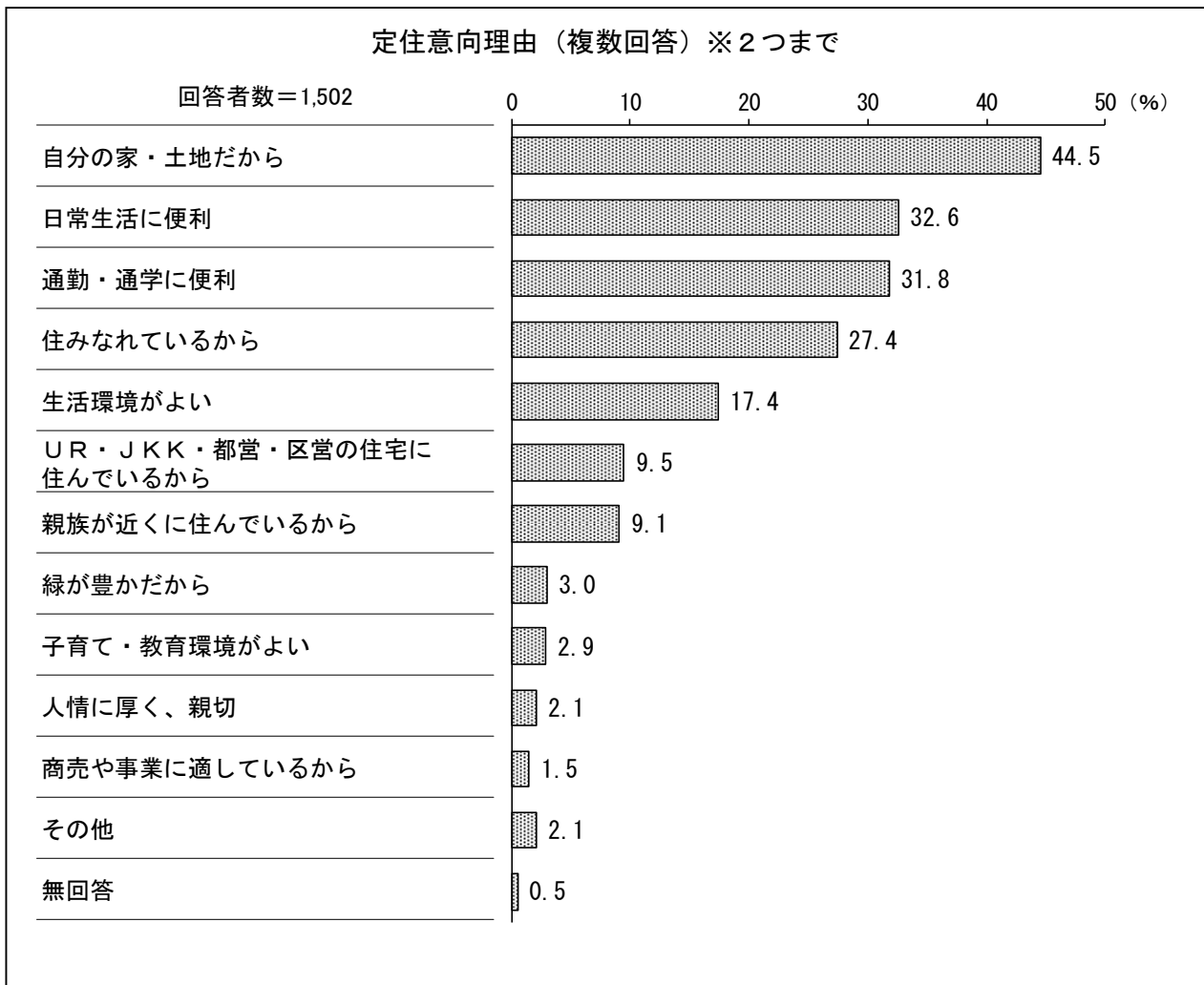
(3) 定住意向理由

◇「自分の家（土地）だから」が4割台半ば

問2-1	(問2で、「1」か「2」とお答えの方に)				
	あなたが、これからも江東区に住みたい理由は何ですか。 次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,502)				
1	自分の家・土地だから	44.5%	7	人情に厚く、親切	2.1%
2	商売や事業に適しているから	1.5%	8	住みなれているから	27.4%
3	通勤・通学に便利	31.8%	9	親族が近くに住んでいるから	9.1%
4	生活環境がよい	17.4%	10	緑が豊かだから	3.0%
5	子育て・教育環境がよい	2.9%	11	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから	9.5%
6	日常生活に便利	32.6%	12	その他	2.1%
				無回答	0.5%

定住意向理由については、「自分の家・土地だから」（44.5%）が4割台半ばで最も多く、次いで「日常生活に便利」（32.6%）、「通勤・通学に便利」（31.8%）と続いている。

1 調査結果の分析
定住性



第4章 調査結果の分析〈1 定住性〉

定住意向理由－地区

地区でみると、「自分の家（土地）だから」は南砂地区で5割、「日常生活に便利」は富岡・東陽地区で5割近くとなっている。「通勤・通学に便利」は白河・小松橋区で4割、「住みなれているから」は砂町地区で4割を超えている。

定住意向理由－地区（上位5項目）

		(%)				
	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,502	自分の家・土地だから 44.5	日常生活に便利 32.6	通勤・通学に便利 31.8	住みなれているから 27.4	生活環境がよい 17.4
地区	白河・小松橋	自分の家・土地だから 47.8	通勤・通学に便利 40.1	日常生活に便利 31.2	住みなれているから 23.9	生活環境がよい 19.8
	富岡・東陽	日常生活に便利 46.6	自分の家・土地だから 37.9	通勤・通学に便利 36.6	住みなれているから 23.3	生活環境がよい 17.2
	豊洲	自分の家・土地だから 40.1	通勤・通学に便利 36.4	日常生活に便利 28.5	生活環境がよい 24.5	住みなれているから 19.9
	亀戸	自分の家・土地だから 48.2	住みなれているから 34.3	通勤・通学に便利 31.9	日常生活に便利 30.7	親族が近くに住んでいるから 15.1
	大島	自分の家・土地だから 43.3	通勤・通学に便利／日常生活に便利 36.1		住みなれているから 23.3	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 13.9
	砂町	自分の家・土地だから 48.4	住みなれているから 41.6	日常生活に便利 24.0	通勤・通学に便利 18.6	生活環境がよい 16.3
	南砂	自分の家・土地だから 50.0	日常生活に便利 30.3	住みなれているから 29.5	UR・JKK・都営・区営の住宅に住んでいるから 20.5	通勤・通学に便利 16.7

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「日常生活に便利」は女性の方が男性より8ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「自分の家・土地だから」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高くなっている。「通勤・通学に便利」は女性18～29歳で6割近くとなっている。

定住意向理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,502	自分の家・土地だから 44.5	日常生活に便利 32.6	通勤・通学に便利 31.8	住みなれているから 27.4	生活環境がよい 17.4
性別	男性	652	自分の家・土地だから 44.9	通勤・通学に便利 35.4	住みなれているから 28.4	日常生活に便利 28.2	生活環境がよい 19.0
	女性	835	自分の家・土地だから 44.1	日常生活に便利 35.8	通勤・通学に便利 29.3	住みなれているから 26.2	生活環境がよい 16.3
年齢	18～29歳	123	通勤・通学に便利 52.8	住みなれているから 29.3	日常生活に便利 25.2	自分の家・土地だから／生活環境がよい 21.1	
	30～39歳	214	通勤・通学に便利 53.3	自分の家・土地だから 31.8	生活環境がよい／日常生活に便利 28.0		住みなれているから 20.6
	40～49歳	323	自分の家・土地だから／通勤・通学に便利 44.6		日常生活に便利 29.1	住みなれているから 22.9	生活環境がよい 21.1
	50～59歳	270	自分の家・土地だから 48.1	通勤・通学に便利 36.7	日常生活に便利 35.9	住みなれているから 25.9	生活環境がよい 15.2
	60～69歳	222	自分の家・土地だから 58.1	日常生活に便利 38.3	住みなれているから 32.0	通勤・通学に便利 16.7	生活環境がよい 12.6
	70歳以上	335	自分の家・土地だから 49.0	日常生活に便利 34.6	住みなれているから 32.5	UR・JKK・都営・区営 の住宅に住んでいるから 23.6	生活環境がよい 11.0
男性×年齢	18～29歳	57	通勤・通学に便利 47.4	住みなれているから 36.8	日常生活に便利 28.1	生活環境がよい 26.3	自分の家・土地だから 17.5
	30～39歳	96	通勤・通学に便利 53.1	自分の家・土地だから 32.3	日常生活に便利 31.3	生活環境がよい 28.1	住みなれているから 20.8
	40～49歳	137	自分の家・土地だから 51.8	通勤・通学に便利 44.5	日常生活に便利 24.1	生活環境がよい 21.9	住みなれているから 19.0
	50～59歳	138	通勤・通学に便利 44.2	自分の家・土地だから 42.8	日常生活に便利 29.7	住みなれているから 28.3	生活環境がよい 13.8
	60～69歳	85	自分の家・土地だから 61.2	住みなれているから 30.6	通勤・通学に便利／日常生活に便利 28.2		生活環境がよい 12.9
	70歳以上	139	自分の家・土地だから 50.4	住みなれているから 38.1	日常生活に便利 28.8	UR・JKK・都営・区営 の住宅に住んでいるから 20.9	生活環境がよい 15.8
女性×年齢	18～29歳	66	通勤・通学に便利 57.6	自分の家・土地だから 24.2	日常生活に便利／住みなれているから 22.7		生活環境がよい／ 親族が近くに住んでいるから 16.7
	30～39歳	118	通勤・通学に便利 53.4	自分の家・土地だから 31.4	生活環境がよい 28.0	日常生活に便利 25.4	住みなれているから 20.3
	40～49歳	186	通勤・通学に便利 44.6	自分の家・土地だから 39.2	日常生活に便利 32.8	住みなれているから 25.8	生活環境がよい 20.4
	50～59歳	132	自分の家・土地だから 53.8	日常生活に便利 42.4	通勤・通学に便利 28.8	住みなれているから 23.5	生活環境がよい 16.7
	60～69歳	137	自分の家・土地だから 56.2	日常生活に便利 44.5	住みなれているから 32.8	生活環境がよい 12.4	親族が近くに住んでいるから／ UR・JKK・都営・区営の住宅に 住んでいるから 10.9
	70歳以上	196	自分の家・土地だから 48.0	日常生活に便利 38.8	住みなれているから 28.6	UR・JKK・都営・区営 の住宅に住んでいるから 25.5	親族が近くに 住んでいるから 8.7

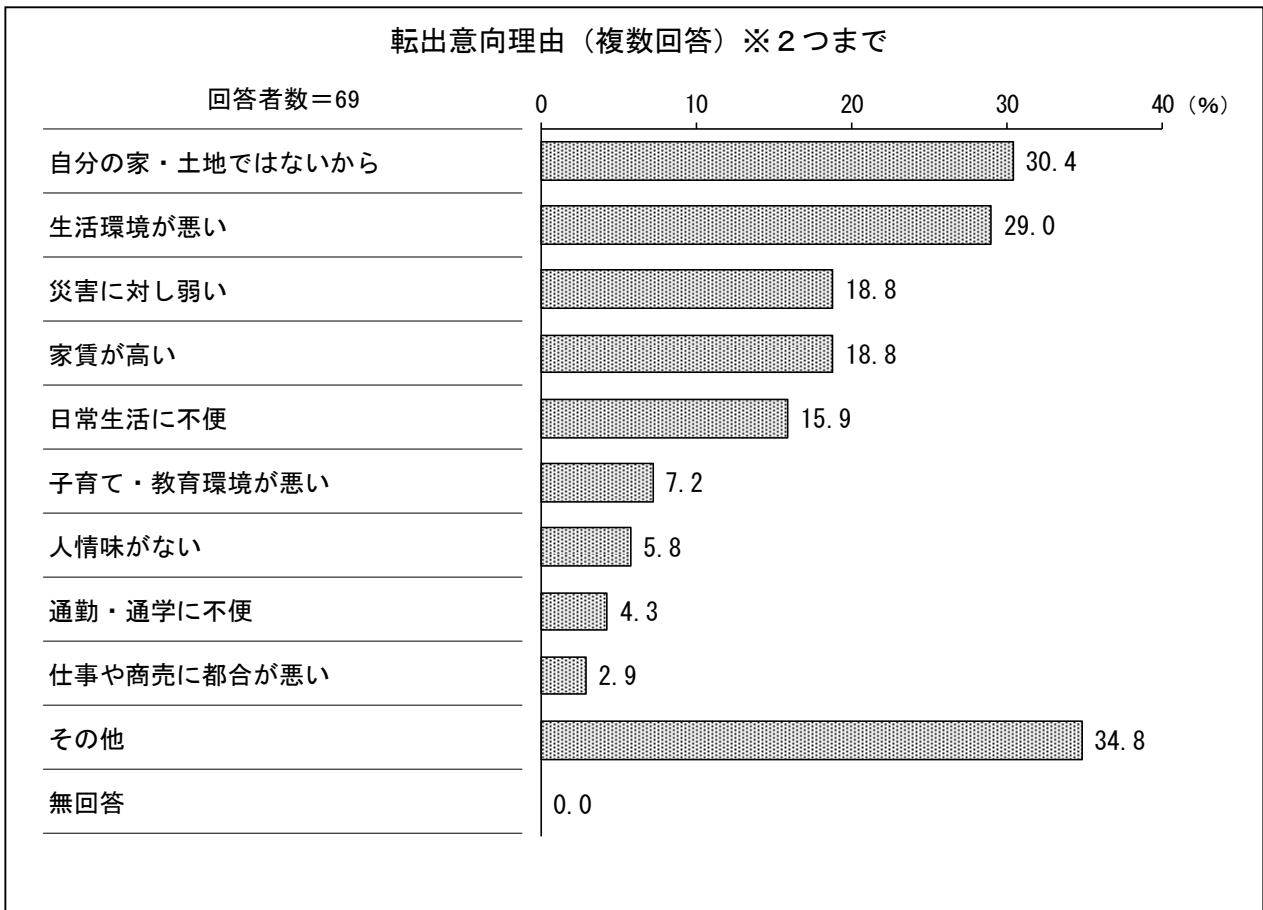
1 調査結果の分析
定住性

(4) 転出意向理由

◇「自分の家・土地ではないから」と「生活環境が悪い」が3割前後

問2-2	(問2で、「3」か「4」とお答えの方に) あなたが、江東区に住みたくない理由は何ですか。次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。 (回答者数=69)				
1	自分の家・土地ではないから	30.4%	6	日常生活に不便	15.9%
2	仕事や商売に都合が悪い	2.9%	7	人情味がない	5.8%
3	通勤・通学に不便	4.3%	8	災害に対し弱い	18.8%
4	生活環境が悪い	29.0%	9	家賃が高い	18.8%
5	子育て・教育環境が悪い	7.2%	10	その他	34.8%
				無回答	-

転出意向理由としては、「自分の家・土地ではないから」(30.4%)が3割で最も多く、次いで「生活環境が悪い」(29.0%)、「災害に対し弱い」(18.8%)と続いている。



2 防災対策

-
- (1) 震災時の不安
 - (2) 震災時の備え
 - (3) 家庭内で準備している防災用品・用具
 - (4) 防災対策への要望
-

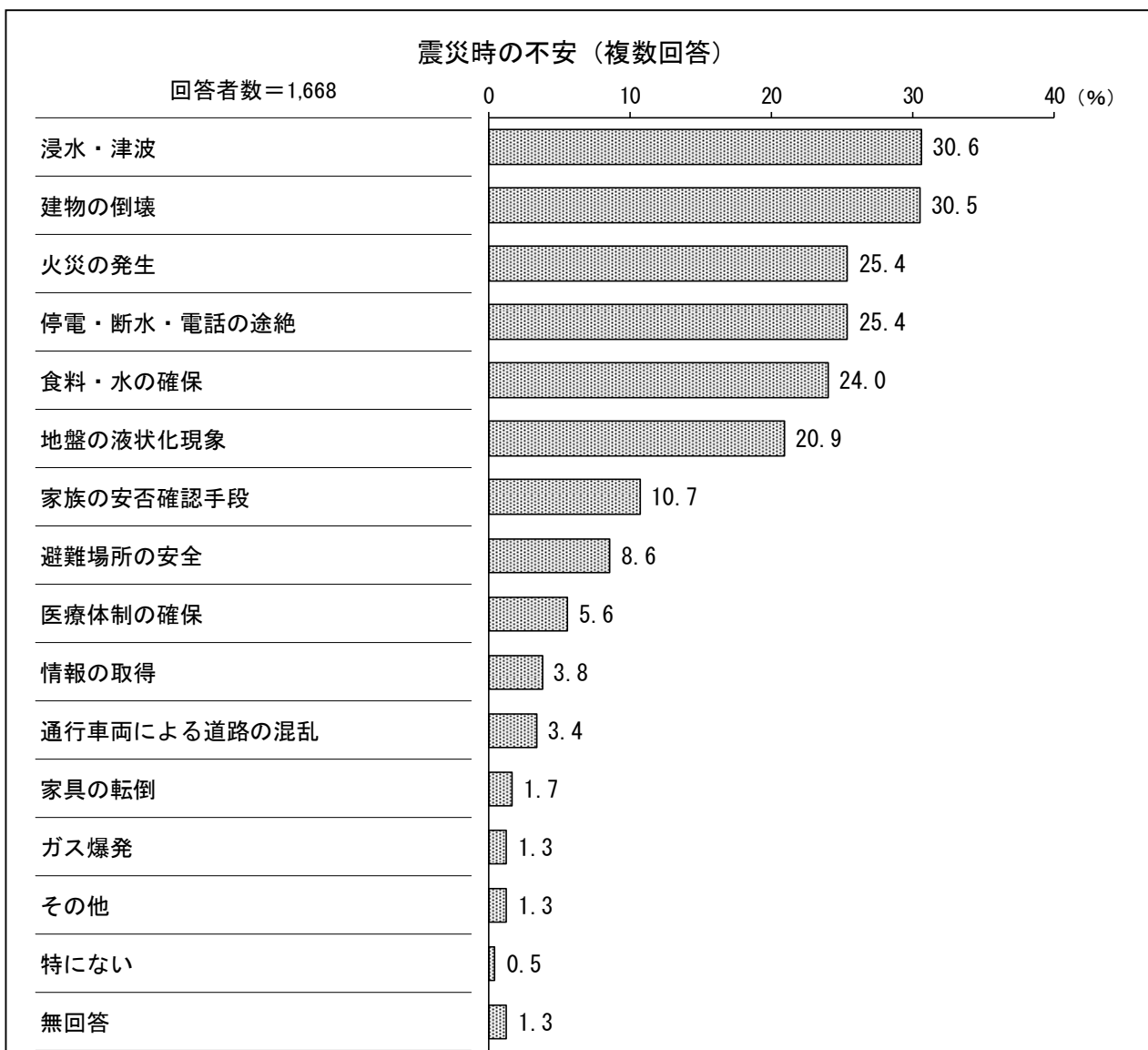
2 防災対策

(1) 震災時の不安

◇「浸水・津波」と「建物の倒壊」がほぼ3割

問3	今後、東京に大地震が発生した場合に、あなたが特に不安だと思うことは何ですか。次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。(回答者数=1,668)				
1	火災の発生	25.4%	9	避難場所の安全	8.6%
2	ガス爆発	1.3%	10	家族の安否確認手段	10.7%
3	浸水・津波	30.6%	11	食料・水の確保	24.0%
4	地盤の液状化現象	20.9%	12	医療体制の確保	5.6%
5	建物の倒壊	30.5%	13	家具の転倒	1.7%
6	通行車両による道路の混乱	3.4%	14	その他	1.3%
7	停電・断水・電話の途絶	25.4%	15	特にない	0.5%
8	情報の取得	3.8%		無回答	1.3%

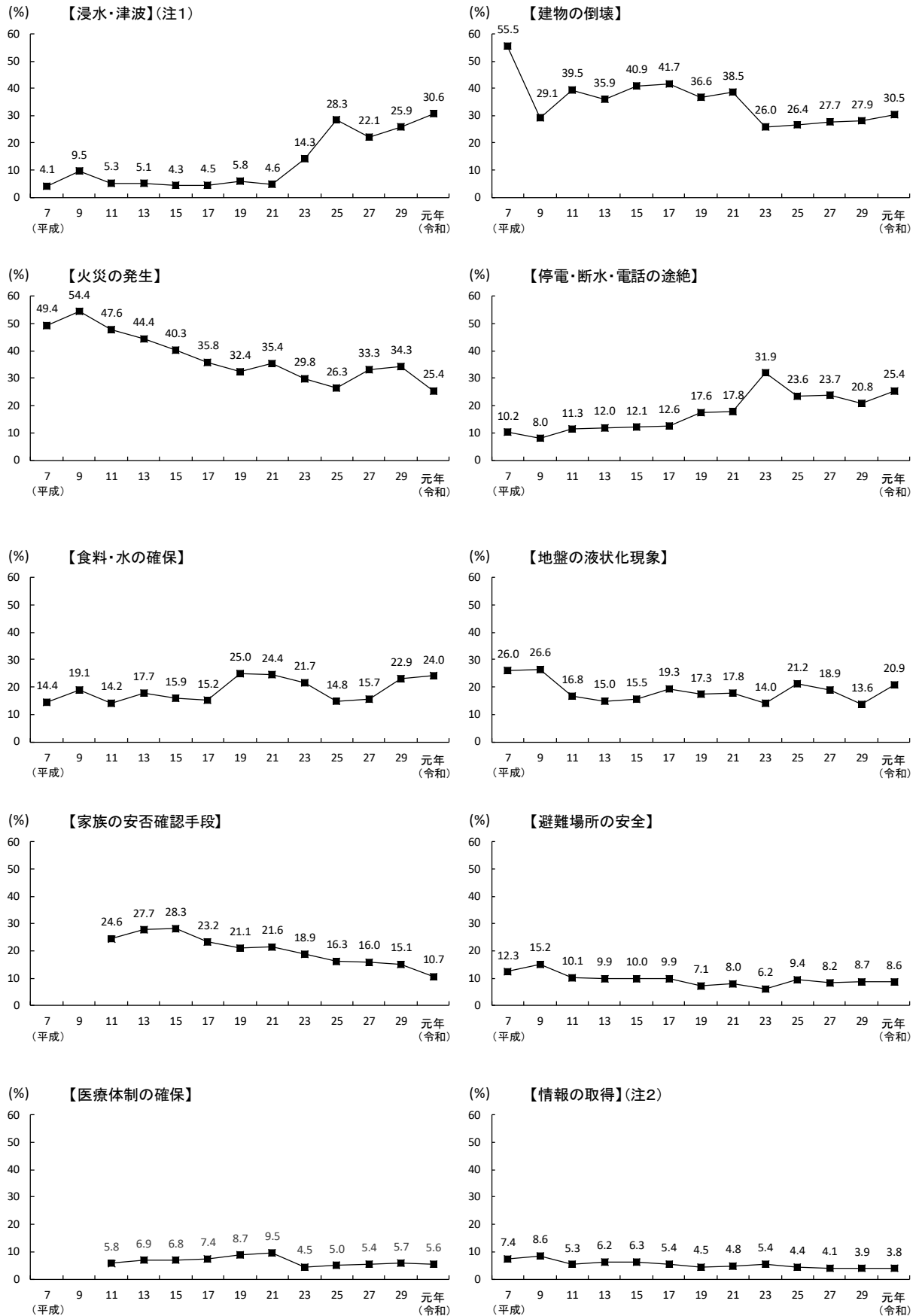
大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「浸水・津波」(30.6%)がほぼ3割で最も多く、次いで「建物の倒壊」(30.5%)、「火災の発生」(25.4%)と続いている。

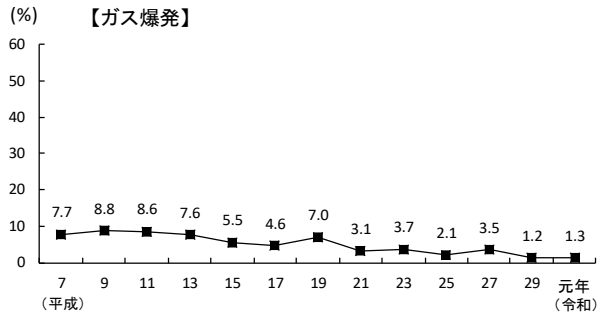
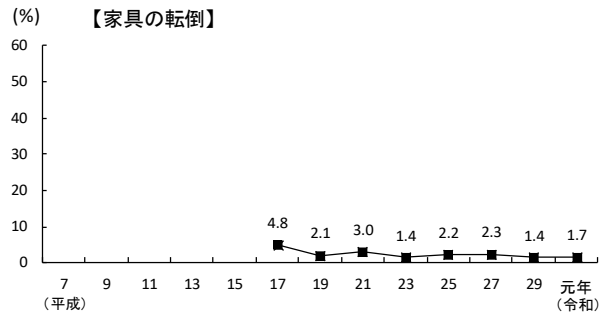
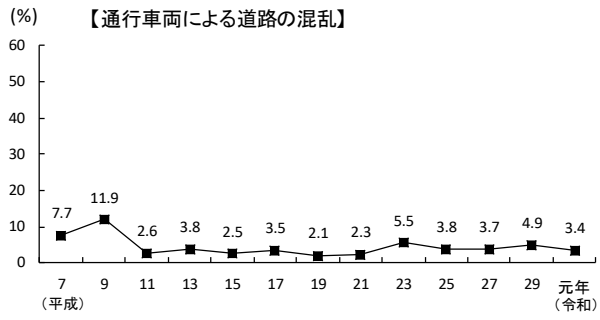


震災時の不安一時系列比較

時系列の変化をみると、「浸水・津波」は前回調査と比べて5ポイント高くなっている。一方、「火災の発生」は前回調査と比べて9ポイント低くなっている。

震災時の不安一時系列比較





(注1) 平成21年までは「浸水」

(注2) 平成21年までは「情報の提供」

震災時の不安－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「浸水・津波」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「浸水・津波」は男性18～29歳で5割近くとなっている。「建物の倒壊」は女性50～59歳で4割近く、「火災の発生」は男性60～69歳で4割となっている。

震災時の不安－性別・性／年齢別（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,668	浸水・津波 30.6	建物の倒壊 30.5	火災の発生／停電・断水・電話の途絶 25.4	食料・水の確保 24.0		
性別	男性	728	浸水・津波 33.4	建物の倒壊 28.2	食料・水の確保 26.5	火災の発生 25.3	地盤の液状化現象 22.9	
	女性	920	建物の倒壊 32.2	浸水・津波 28.5	停電・断水・電話の途絶 27.9	火災の発生 25.3	食料・水の確保 22.0	
年齢	18～29歳	154	浸水・津波 42.2	建物の倒壊 29.9	地盤の液状化現象 27.3	食料・水の確保 24.7	停電・断水・電話の途絶 24.0	
	30～39歳	246	浸水・津波 41.1	食料・水の確保 28.5	建物の倒壊 26.4	停電・断水・電話の途絶 22.0	地盤の液状化現象 21.5	
	40～49歳	359	浸水・津波 31.5	地盤の液状化現象／建物の倒壊 28.4		停電・断水・電話の途絶 27.6	食料・水の確保 25.9	
	50～59歳	295	建物の倒壊 34.9	浸水・津波 30.8	停電・断水・電話の途絶 27.1	火災の発生 24.4	食料・水の確保 24.1	
	60～69歳	240	火災の発生 35.4	建物の倒壊 32.1	停電・断水・電話の途絶 25.0	浸水・津波 23.8	食料・水の確保 22.5	
	70歳以上	354	建物の倒壊 30.5	火災の発生 28.8	停電・断水・電話の途絶 25.4	浸水・津波 22.3	食料・水の確保 19.5	
男性×年齢	18～29歳	76	浸水・津波 48.7	地盤の液状化現象 32.9	建物の倒壊 28.9	食料・水の確保 27.6	停電・断水・電話の途絶 18.4	
	30～39歳	108	浸水・津波 37.0	食料・水の確保 34.3	火災の発生／建物の倒壊 23.1		停電・断水・電話の途絶 22.2	
	40～49歳	158	浸水・津波 33.5	食料・水の確保 32.9	地盤の液状化現象 32.3	建物の倒壊 24.7	火災の発生 21.5	
	50～59歳	145	建物の倒壊 33.1	浸水・津波 32.4	停電・断水・電話の途絶 26.9	火災の発生 24.8	地盤の液状化現象 20.7	
	60～69歳	97	火災の発生 40.2	建物の倒壊 32.0	浸水・津波 25.8	食料・水の確保 20.6	地盤の液状化現象／停電・断水・電話の途絶 18.6	
	70歳以上	144	浸水・津波 28.5	建物の倒壊 27.8	火災の発生 27.1	停電・断水・電話の途絶 24.3	食料・水の確保 23.6	
女性×年齢	18～29歳	77	浸水・津波 35.1	建物の倒壊 31.2	停電・断水・電話の途絶 28.6	地盤の液状化現象／食料・水の確保 22.1		
	30～39歳	138	浸水・津波 44.2	建物の倒壊 29.0	食料・水の確保 23.9	地盤の液状化現象 23.2	停電・断水・電話の途絶 21.7	
	40～49歳	201	停電・断水・電話の途絶 32.8	建物の倒壊 31.3	浸水・津波 29.9	火災の発生 26.4	地盤の液状化現象 25.4	
	50～59歳	150	建物の倒壊 36.7	浸水・津波 29.3	食料・水の確保 28.0	停電・断水・電話の途絶 27.3	火災の発生 24.0	
	60～69歳	143	火災の発生／建物の倒壊 32.2		停電・断水・電話の途絶 29.4	食料・水の確保 23.8	浸水・津波 22.4	
	70歳以上	210	建物の倒壊 32.4	火災の発生 30.0	停電・断水・電話の途絶 26.2	浸水・津波 18.1	食料・水の確保 16.7	

震災時の不安－住居形態

住居形態でみると、「浸水・津波」は寮・社宅で5割を超えている。「建物の倒壊」は一戸建持家(借地)で4割近くとなっている。

震災時の不安－住居形態（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位		
全体		1,668	浸水・津波 30.6	建物の倒壊 30.5	火災の発生／停電・断水・電話の途絶 25.4	食料・水の確保 24.0			
住居形態	持ち家	自己所有地	224	浸水・津波 37.1	火災の発生 34.4	建物の倒壊 33.0	地盤の液状化現象／停電・断水・電話の途絶 17.4		
		借地	44	火災の発生 45.5	浸水・津波 40.9	建物の倒壊 38.6	停電・断水・電話の途絶／食料・水の確保 15.9		
		集合住宅	735	建物の倒壊 30.3	浸水・津波 28.4	停電・断水・電話の途絶 26.9	地盤の液状化現象 25.3	火災の発生 24.1	
	賃貸	一戸建て	14	浸水・津波 64.3	火災の発生 42.9	建物の倒壊 28.6	地盤の液状化現象 21.4	食料・水の確保 14.3	
		民間 集合住宅	民間	311	浸水・津波 35.4	食料・水の確保 30.5	停電・断水・電話の途絶 28.0	建物の倒壊 26.0	火災の発生 22.5
			都営等	248	建物の倒壊 33.1	停電・断水・電話の途絶／食料・水の確保 27.8	火災の発生 21.0	地盤の液状化現象 19.0	
		寮・社宅	50	浸水・津波 52.0	建物の倒壊 30.0	停電・断水・電話の途絶 30.0	食料・水の確保 26.0	火災の発生 24.0	
		間借り・住み込み	7	停電・断水・電話の途絶／食料・水の確保 42.9	建物の倒壊 28.6	火災の発生／浸水・津波／地盤の液状化現象／避難場所の安全 14.3			
	その他	12	浸水・津波／食料・水の確保 41.7	建物の倒壊 25.0	医療体制の確保 16.7	火災の発生／地盤の液状化現象／停電・断水・電話の途絶／避難場所の安全／家族の安否確認手段／その他 8.3			

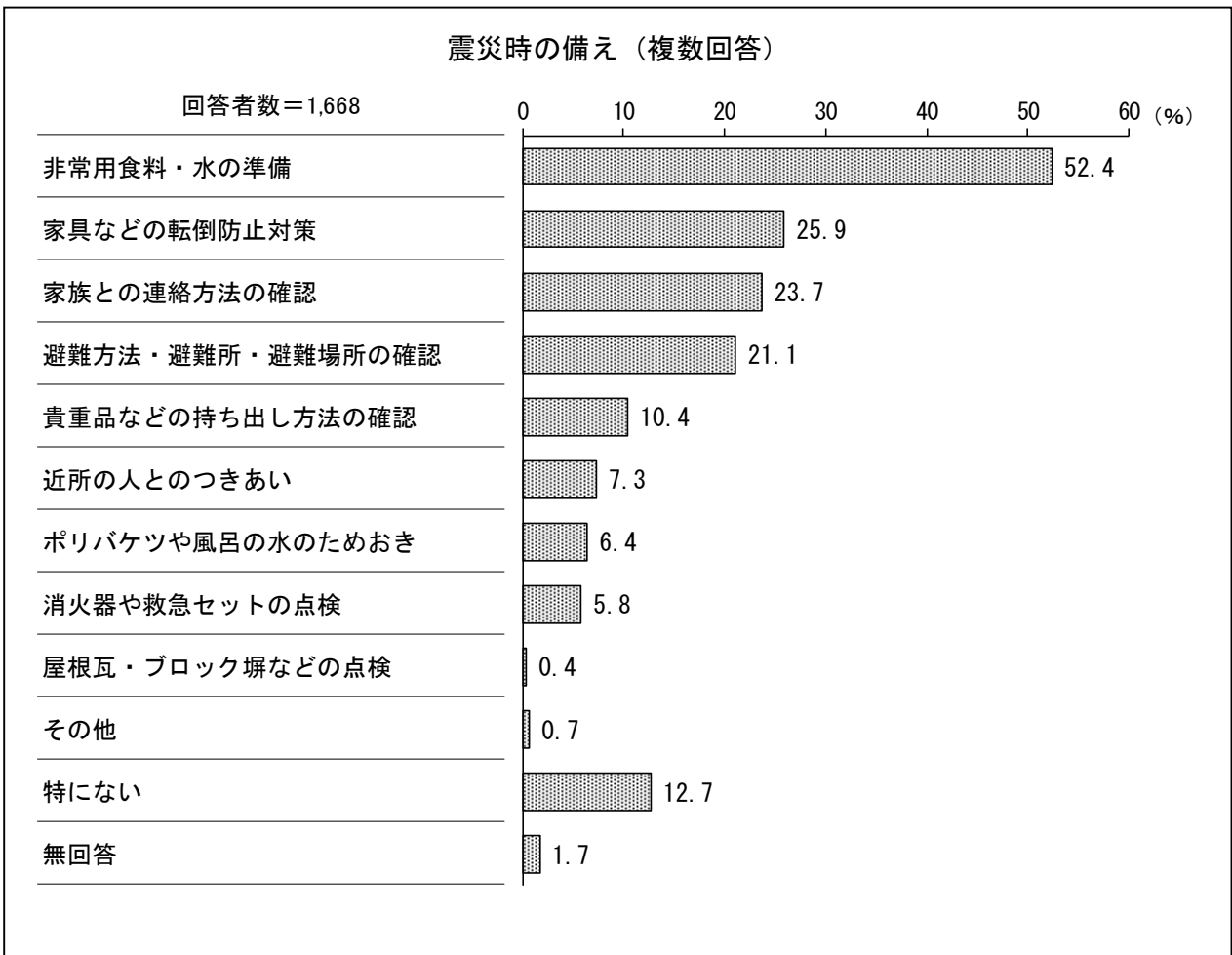
2 調査結果の分析
防災対策

(2) 震災時の備え

◇「非常用食料・水の準備」が5割を超える

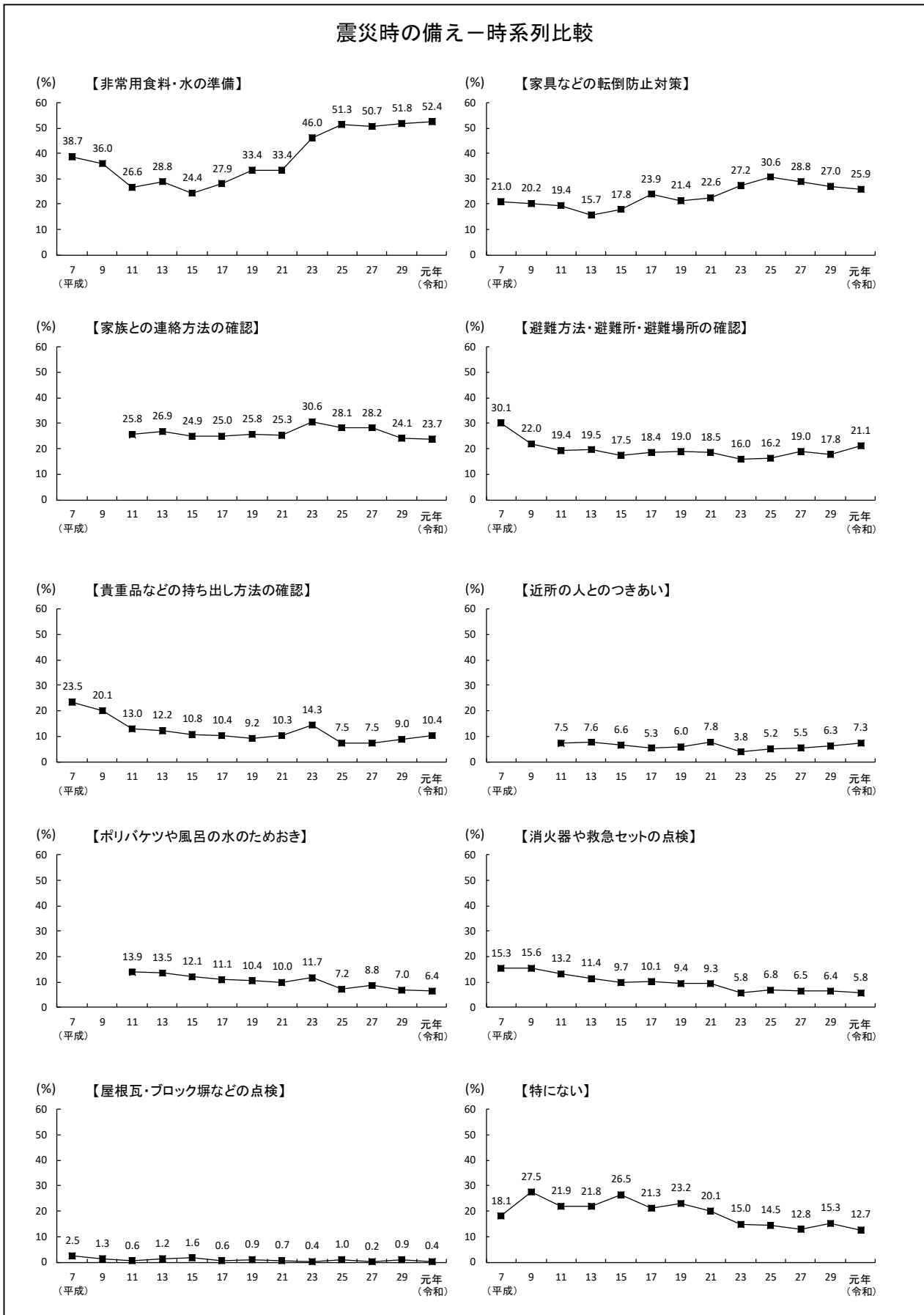
問4	あなたのご家庭で、大地震に備えて普段から特に心掛けていることは何ですか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,668)				
1	屋根瓦・ブロック塀などの点検	0.4%	7	家族との連絡方法の確認	23.7%
2	家具などの転倒防止対策	25.9%	8	ポリバケツや風呂の水のためおき	6.4%
3	消火器や救急セットの点検	5.8%	9	近所の人とのつきあい	7.3%
4	非常用食料・水の準備	52.4%	10	その他	0.7%
5	避難方法・避難所・避難場所の確認	21.1%	11	特にない	12.7%
6	貴重品などの持ち出し方法の確認	10.4%		無回答	1.7%

大地震に備えて家庭で普段から特に心掛けていることは何か聞いたところ、「非常用食料・水の準備」(52.4%)が5割を超えて最も多く、次いで「家具などの転倒防止対策」(25.9%)、「家族との連絡方法の確認」(23.7%)と続いている。



震災時の備え—時系列比較

時系列の変化をみると、「避難方法・避難所・避難場所の確認」は前回調査と比べて3ポイント高くなっている。



2 調査結果の分析
防災対策

第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉

震災時の備え－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「非常用食料・水の準備」は女性の方が男性より5ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、第1位はすべて「非常用食料・水の準備」となっており、女性50～59歳で6割を超えている。

震災時の備え－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,668	非常用食料・水の準備 52.4	家具などの転倒防止対策 25.9	家族との連絡方法の確認 23.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.1	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.4
性別	男性	728	非常用食料・水の準備 50.0	家族との連絡方法の確認 25.7	家具などの転倒防止対策 23.8	避難方法・避難所・避難場所の確認 22.4	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.6
	女性	920	非常用食料・水の準備 54.8	家具などの転倒防止対策 27.7	家族との連絡方法の確認 22.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 20.1	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.1
年齢	18～29歳	154	非常用食料・水の準備 40.9	家族との連絡方法の確認 23.4	避難方法・避難所・避難場所の確認 20.1	家具などの転倒防止対策 15.6	貴重品などの持ち出し方法の確認 7.8
	30～39歳	246	非常用食料・水の準備 56.5	家族との連絡方法の確認 25.2	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.5	家具などの転倒防止対策 18.3	貴重品などの持ち出し方法の確認 11.0
	40～49歳	359	非常用食料・水の準備 55.2	家具などの転倒防止対策 25.3	家族との連絡方法の確認 25.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.2	貴重品などの持ち出し方法の確認 5.6
	50～59歳	295	非常用食料・水の準備 57.6	家具などの転倒防止対策 28.8	家族との連絡方法の確認 23.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 22.4	貴重品などの持ち出し方法の確認 9.5
	60～69歳	240	非常用食料・水の準備 51.7	家具などの転倒防止対策 32.1	家族との連絡方法の確認 25.0	避難方法・避難所・避難場所の確認 18.8	貴重品などの持ち出し方法の確認 15.0
	70歳以上	354	非常用食料・水の準備 49.2	家具などの転倒防止対策 29.9	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.8	家族との連絡方法の確認 20.6	近所の人とのつきあい 15.3
男性×年齢	18～29歳	76	非常用食料・水の準備 34.2	避難方法・避難所・避難場所の確認 26.3	家族との連絡方法の確認 22.4	家具などの転倒防止対策 11.8	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.5
	30～39歳	108	非常用食料・水の準備 58.3	家族との連絡方法の確認 26.9	家具などの転倒防止対策／避難方法・避難所・避難場所の確認 16.7	貴重品などの持ち出し方法の確認 13.0	
	40～49歳	158	非常用食料・水の準備 51.3	家族との連絡方法の確認 28.5	避難方法・避難所・避難場所の確認 24.1	家具などの転倒防止対策 21.5	消火器や救急セットの点検 7.0
	50～59歳	145	非常用食料・水の準備 52.4	避難方法・避難所・避難場所の確認 27.6	家族との連絡方法の確認 26.2	家具などの転倒防止対策 24.8	貴重品などの持ち出し方法の確認 9.0
	60～69歳	97	非常用食料・水の準備 53.6	家具などの転倒防止対策 25.8	家族との連絡方法の確認 24.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.6	貴重品などの持ち出し方法の確認 17.5
	70歳以上	144	非常用食料・水の準備 45.8	家具などの転倒防止対策 35.4	家族との連絡方法の確認 23.6	避難方法・避難所・避難場所の確認 18.1	近所の人とのつきあい 17.4
女性×年齢	18～29歳	77	非常用食料・水の準備 46.8	家族との連絡方法の確認 23.4	家具などの転倒防止対策 19.5	避難方法・避難所・避難場所の確認 14.3	貴重品などの持ち出し方法の確認 5.2
	30～39歳	138	非常用食料・水の準備 55.1	避難方法・避難所・避難場所の確認 25.4	家族との連絡方法の確認 23.9	家具などの転倒防止対策 19.6	貴重品などの持ち出し方法の確認 9.4
	40～49歳	201	非常用食料・水の準備 58.2	家具などの転倒防止対策 28.4	家族との連絡方法の確認 22.4	避難方法・避難所・避難場所の確認 18.9	貴重品などの持ち出し方法の確認 6.0
	50～59歳	150	非常用食料・水の準備 62.7	家具などの転倒防止対策 32.7	家族との連絡方法の確認 21.3	避難方法・避難所・避難場所の確認 17.3	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.0
	60～69歳	143	非常用食料・水の準備 50.3	家具などの転倒防止対策 36.4	家族との連絡方法の確認 25.2	避難方法・避難所・避難場所の確認 16.8	貴重品などの持ち出し方法の確認 13.3
	70歳以上	210	非常用食料・水の準備 51.4	家具などの転倒防止対策 26.2	避難方法・避難所・避難場所の確認 24.3	家族との連絡方法の確認 18.6	ポリバケツや風呂の水のためおき 15.7

第4章 調査結果の分析
2 防災対策

震災時の備え－住居形態

住居形態でみると、第1位はすべて「非常用食料・水の準備」となっており、持ち家（集合住宅）で6割近くとなっている。

震災時の備え－住居形態（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	
全体		1,668	非常用食料・水の準備 52.4	家具などの転倒防止対策 25.9	家族との連絡方法の確認 23.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.1	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.4	
住居形態	持ち家	自己所有地	224 非常用食料・水の準備 52.7	家具などの転倒防止対策 27.7	避難方法・避難所・避難場所の確認 23.2	家族との連絡方法の確認 22.3	近所の人とのつきあい 11.6	
		借地	44 非常用食料・水の準備 38.6	家族との連絡方法の確認 25.0	避難方法・避難所・避難場所の確認 20.5	家具などの転倒防止対策／貴重品などの持ち出し方法の確認 18.2		
		集合住宅	735 非常用食料・水の準備 58.6	家具などの転倒防止対策 30.1	家族との連絡方法の確認 25.3	避難方法・避難所・避難場所の確認 19.0	貴重品などの持ち出し方法の確認 8.4	
	賃貸	一戸建て	14 非常用食料・水の準備 42.9	避難方法・避難所・避難場所の確認／貴重品などの持ち出し方法の確認／家族との連絡方法の確認 28.6			消火器や救急セットの点検 21.4	
		集合住宅	民間	311 非常用食料・水の準備 48.9	避難方法・避難所・避難場所の確認 24.4	家族との連絡方法の確認 23.5	家具などの転倒防止対策 19.6	貴重品などの持ち出し方法の確認 13.5
			都営等	248 非常用食料・水の準備 46.0	家具などの転倒防止対策 23.8	家族との連絡方法の確認 22.6	避難方法・避難所・避難場所の確認 21.8	ポリバケツや風呂の水のためおき 13.3
		寮・社宅	50 非常用食料・水の準備 38.0	家具などの転倒防止対策 26.0	避難方法・避難所・避難場所の確認 20.0	家族との連絡方法の確認 16.0	貴重品などの持ち出し方法の確認 10.0	
		間借り・住み込み	7 非常用食料・水の準備 71.4	ポリバケツや風呂の水のためおき 28.6	家具などの転倒防止対策／避難方法・避難所・避難場所の確認／家族との連絡方法の確認 14.3			
		その他	12 非常用食料・水の準備 50.0	家具などの転倒防止対策 25.0	消火器や救急セットの点検 16.7	避難方法・避難所・避難場所の確認／貴重品などの持ち出し方法の確認／家族との連絡方法の確認／ポリバケツや風呂の水のためおき／近所の人とのつきあい 8.3		

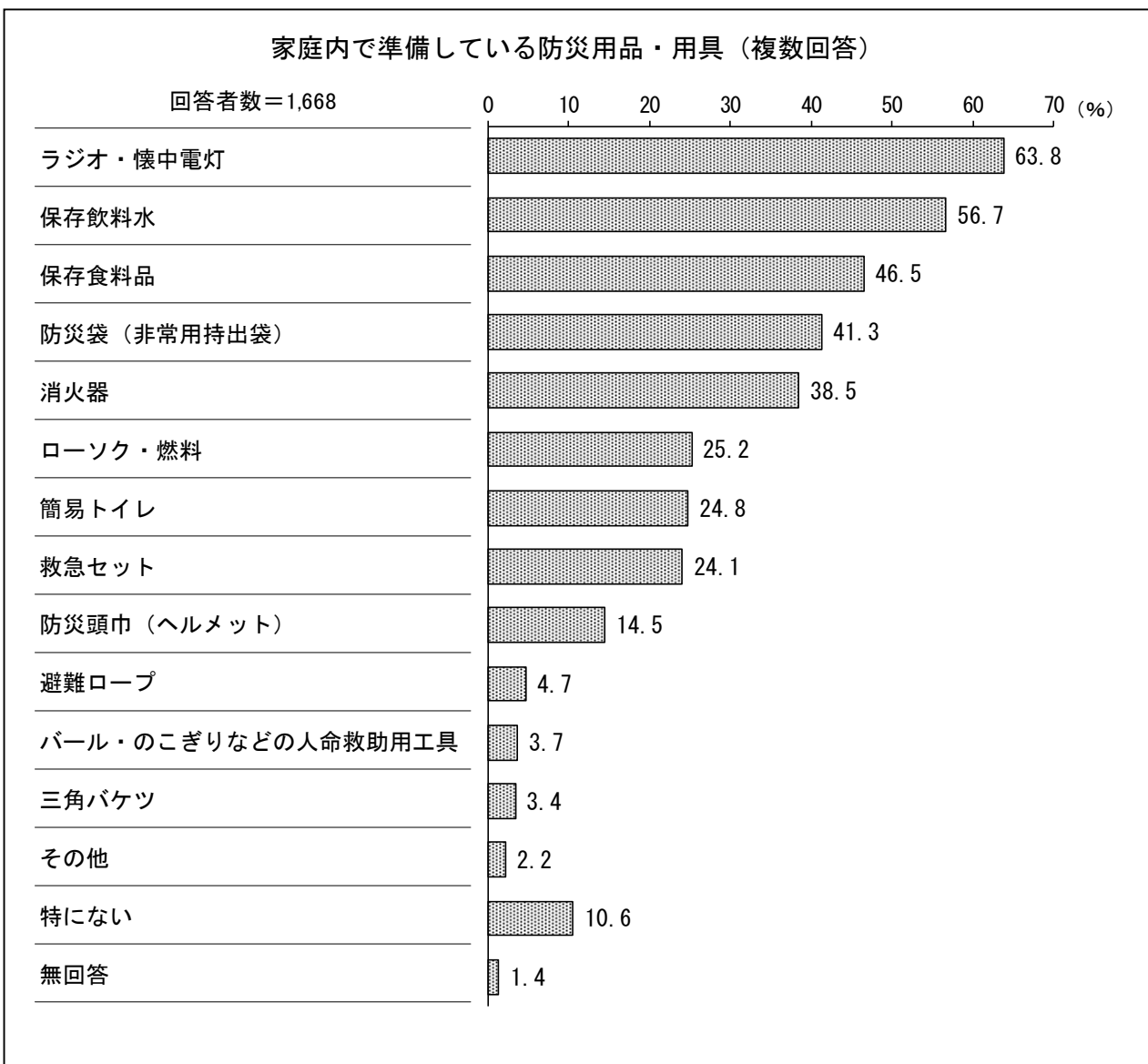
2 調査結果の分析
防災対策

(3) 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「ラジオ・懐中電灯」が6割を超える

問5	あなたのご家庭で、災害に備えて現在準備している防災用品および用具は何ですか。次の中からすべて選んでください。(回答者数=1,668)				
1	消火器	38.5%	9	ラジオ・懐中電灯	63.8%
2	三角バケツ	3.4%	10	ローソク・燃料	25.2%
3	避難ロープ	4.7%	11	バール・のこぎりなどの人命救助用具	3.7%
4	防災袋(非常用持出袋)	41.3%	12	簡易トイレ	24.8%
5	救急セット	24.1%	13	その他	2.2%
6	防災頭巾(ヘルメット)	14.5%	14	特になし	10.6%
7	保存食料品	46.5%		無回答	1.4%
8	保存飲料水	56.7%			

災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「ラジオ・懐中電灯」(63.8%)が6割を超えて最も多く、次いで「保存飲料水」(56.7%)、「保存食料品」(46.5%)と続いている。



家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、男女とも第1位から第5位までは同じ項目になっており、第2位の「保存飲料水」と第3位の「保存食料品」は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「ラジオ・懐中電灯」は男性70歳以上と女性60～69歳で7割台半ばとなっている。

家庭内で準備している防災用品・用具－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,668	ラジオ・懐中電灯 63.8	保存飲料水 56.7	保存食料品 46.5	防災袋(非常用持出袋) 41.3	消火器 38.5	
性別	男性	728	ラジオ・懐中電灯 62.1	保存飲料水 52.9	保存食料品 42.4	防災袋(非常用持出袋) 37.8	消火器 37.6	
	女性	920	ラジオ・懐中電灯 65.2	保存飲料水 59.7	保存食料品 49.8	防災袋(非常用持出袋) 44.1	消火器 39.2	
年齢	18～29歳	154	保存飲料水 44.2	ラジオ・懐中電灯 42.9	保存食料品 40.3	防災袋(非常用持出袋) 29.9	救急セット 27.3	
	30～39歳	246	保存飲料水 56.1	ラジオ・懐中電灯 54.1	保存食料品 49.6	防災袋(非常用持出袋) 35.4	消火器 30.9	
	40～49歳	359	ラジオ・懐中電灯 62.1	保存飲料水 57.9	保存食料品 47.6	消火器 40.1	防災袋(非常用持出袋) 39.0	
	50～59歳	295	ラジオ・懐中電灯 64.4	保存飲料水 58.6	保存食料品 44.7	防災袋(非常用持出袋) 43.1	消火器 41.4	
	60～69歳	240	ラジオ・懐中電灯 73.3	保存飲料水 58.8	防災袋(非常用持出袋) 45.8	保存食料品 43.8	消火器 40.4	
	70歳以上	354	ラジオ・懐中電灯 74.6	保存飲料水 58.2	保存食料品 49.4	防災袋(非常用持出袋) 48.0	消火器 45.2	
男性×年齢	18～29歳	76	ラジオ・懐中電灯 48.7	保存飲料水 42.1	保存食料品 38.2	救急セット 28.9	防災袋(非常用持出袋) 27.6	
	30～39歳	108	保存飲料水 55.6	ラジオ・懐中電灯 52.8	保存食料品 50.9	防災袋(非常用持出袋) 34.3	消火器 30.6	
	40～49歳	158	ラジオ・懐中電灯 61.4	保存飲料水 54.4	保存食料品 44.9	消火器 38.6	防災袋(非常用持出袋) 36.1	
	50～59歳	145	ラジオ・懐中電灯 57.2	保存飲料水 52.4	保存食料品 39.3	防災袋(非常用持出袋) 38.6	消火器 34.5	
	60～69歳	97	ラジオ・懐中電灯 71.1	保存飲料水 52.6	消火器 44.3	防災袋(非常用持出袋) 40.2	ローソク・燃料 36.1	
	70歳以上	144	ラジオ・懐中電灯 75.7	保存飲料水 55.6	消火器 49.3	防災袋(非常用持出袋) 45.1	保存食料品 43.8	
女性×年齢	18～29歳	77	保存飲料水 45.5	保存食料品 41.6	ラジオ・懐中電灯 37.7	防災袋(非常用持出袋) 32.5	救急セット 26.0	
	30～39歳	138	保存飲料水 56.5	ラジオ・懐中電灯 55.1	保存食料品 48.6	防災袋(非常用持出袋) 36.2	消火器 31.2	
	40～49歳	201	ラジオ・懐中電灯 62.7	保存飲料水 60.7	保存食料品 49.8	消火器／防災袋(非常用持出袋) 41.3		
	50～59歳	150	ラジオ・懐中電灯 71.3	保存飲料水 64.7	保存食料品 50.0	消火器 48.0	防災袋(非常用持出袋) 47.3	
	60～69歳	143	ラジオ・懐中電灯 74.8	保存飲料水 62.9	防災袋(非常用持出袋)／保存食料品 49.7		消火器 37.8	
	70歳以上	210	ラジオ・懐中電灯 73.8	保存飲料水 60.0	保存食料品 53.3	防災袋(非常用持出袋) 50.0	消火器 42.4	

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態

住居形態でみると、「ラジオ・懐中電灯」は間借り・住み込み、その他を除いたすべての住居形態で第1位にあげられている。「保存飲料水」は持ち家（集合住宅）で6割を超えている。

家庭内で準備している防災用品・用具－住居形態（上位5項目）

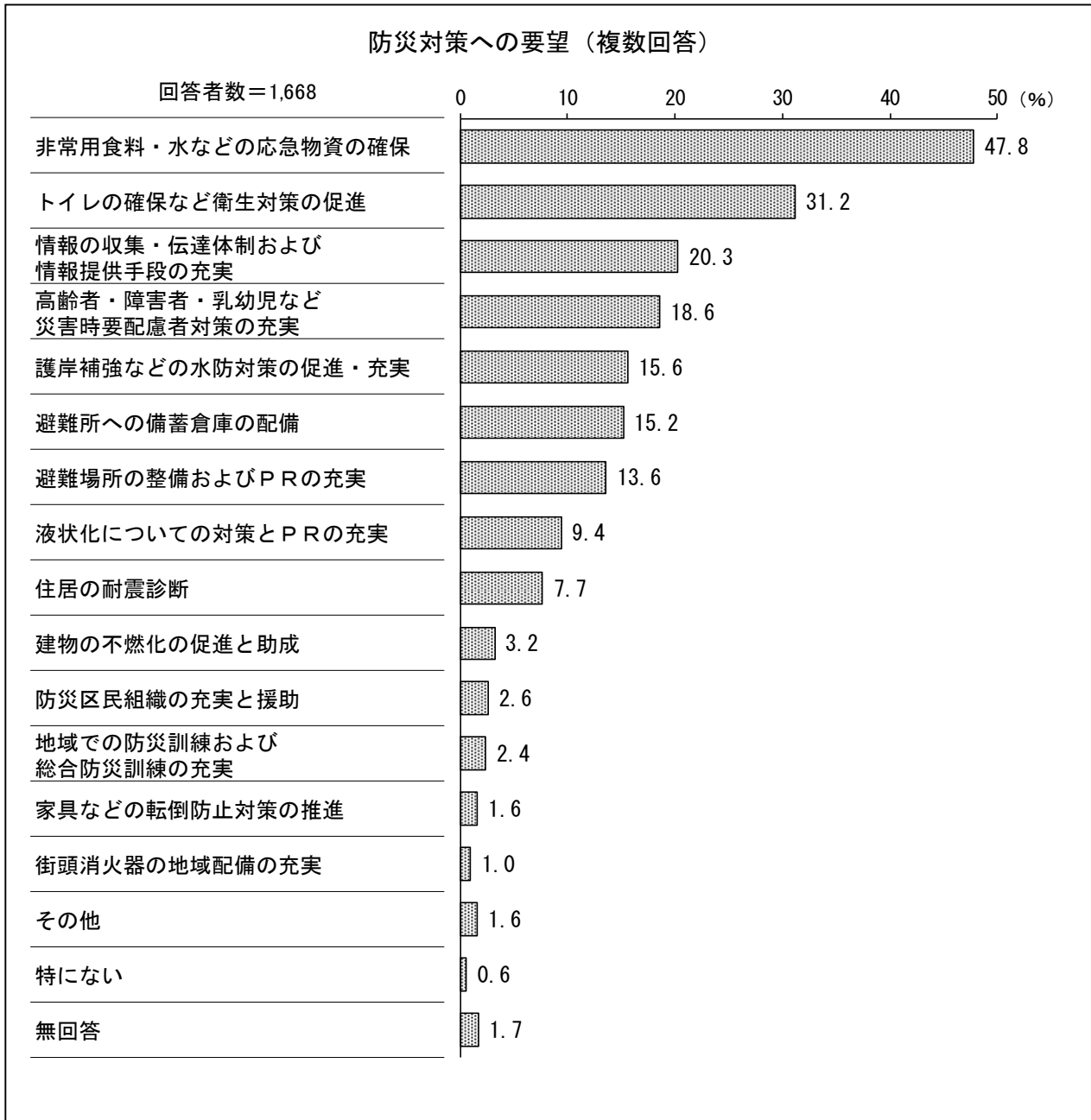
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位		
全体		1,668	ラジオ・懐中電灯 63.8	保存飲料水 56.7	保存食料品 46.5	防災袋（非常用持出袋） 41.3	消火器 38.5		
住居形態	持ち家	自己所有地	224	ラジオ・懐中電灯 67.4	保存飲料水 59.8	防災袋（非常用持出袋） 52.7	保存食料品 51.3	消火器 41.5	
		借地	44	ラジオ・懐中電灯 72.7	保存飲料水 47.7	防災袋（非常用持出袋） 43.2	保存食料品 38.6	消火器 22.7	
		集合住宅	735	ラジオ・懐中電灯 68.7	保存飲料水 63.5	保存食料品 51.3	消火器 47.8	防災袋（非常用持出袋） 46.7	
	賃貸	一戸建て	14	ラジオ・懐中電灯 50.0	防災袋（非常用持出袋） 42.9	消火器／保存飲料水		保存食料品／簡易トイレ 35.7 28.6	
		集合住宅	民間	311	ラジオ・懐中電灯 52.1	保存飲料水 48.2	保存食料品 38.6	防災袋（非常用持出袋） 28.6	消火器 21.2
			都営等	248	ラジオ・懐中電灯 65.7	保存飲料水 50.8	保存食料品 42.7	消火器 37.9	防災袋（非常用持出袋） 35.1
		寮・社宅	50	ラジオ・懐中電灯 44.0	保存飲料水 40.0	保存食料品 34.0	救急セット 20.0	防災袋（非常用持出袋） 18.0	
		間借り・住み込み	7	保存食料品／保存飲料水 71.4		消火器／防災袋（非常用持出袋）／救急セット／ラジオ・懐中電灯／簡易トイレ		28.6	
	その他	12	消火器 58.3	防災袋（非常用持出袋）／ラジオ・懐中電灯 50.0	保存食料品／保存飲料水		41.7		

(4) 防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」が5割近く

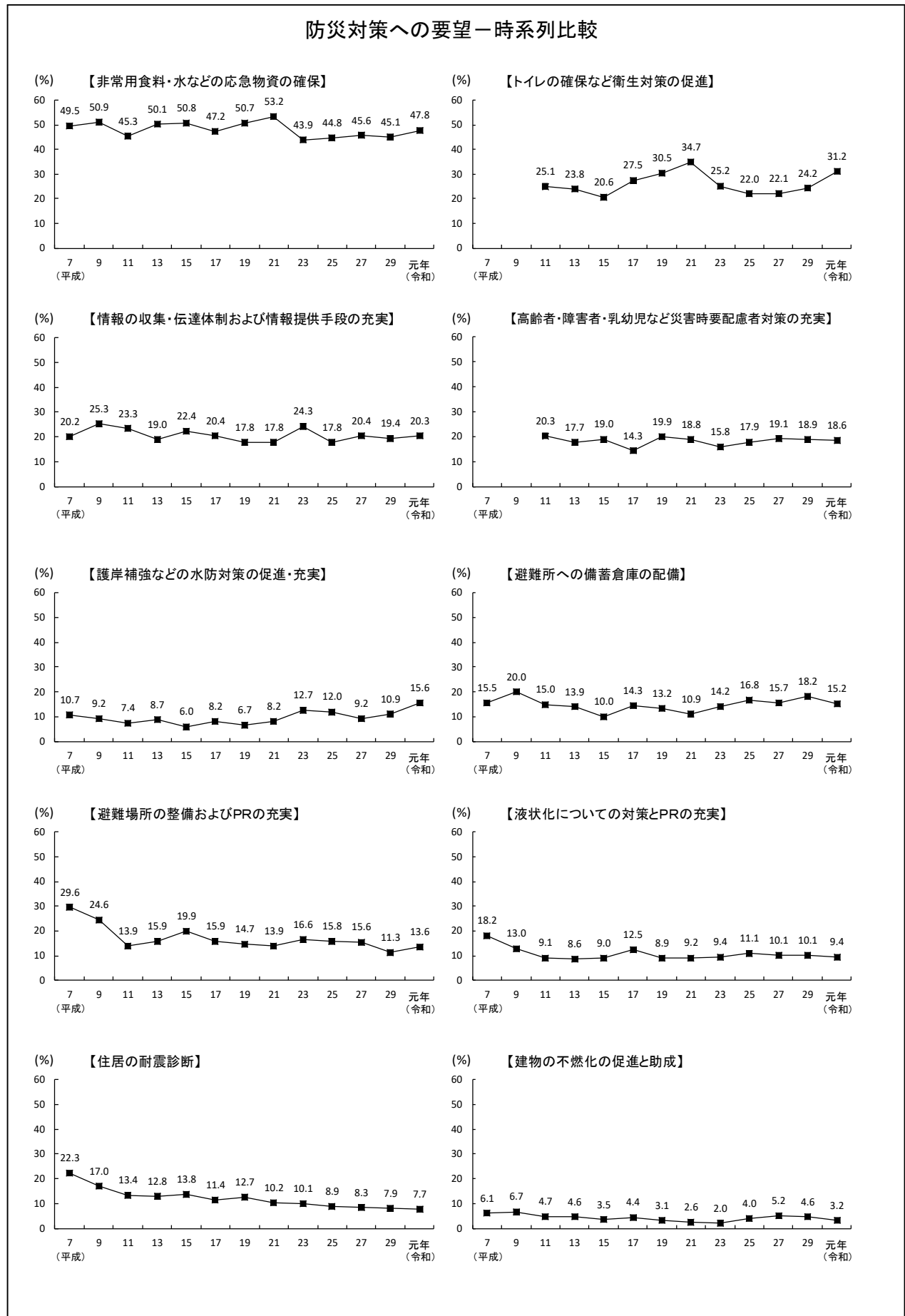
問6	あなたが、大地震の際の防災対策として、江東区に特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,668)	
1	非常用食料・水などの応急物資の確保	47.8%
2	住居の耐震診断	7.7%
3	家具などの転倒防止対策の推進	1.6%
4	避難所への備蓄倉庫の配備	15.2%
5	防災区民組織の充実と援助	2.6%
6	情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実	20.3%
7	建物の不燃化の促進と助成	3.2%
8	地域での防災訓練および総合防災訓練の充実	2.4%
9	街頭消火器の地域配備の充実	1.0%
10	液状化についての対策とPRの充実	9.4%
11	護岸補強などの水防対策の促進・充実	15.6%
12	避難場所の整備およびPRの充実	13.6%
13	高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実	18.6%
14	トイレの確保など衛生対策の促進	31.2%
15	その他	1.6%
16	特にない	0.6%
	無回答	1.7%

大地震の際の防災対策として特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(47.8%)が5割近くで最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(31.2%)、「情報の収集・伝達体制および情報提供手段の充実」(20.3%)と続いている。



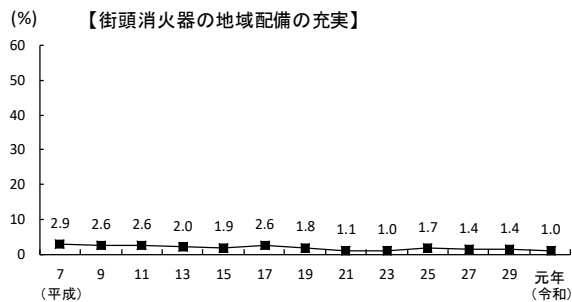
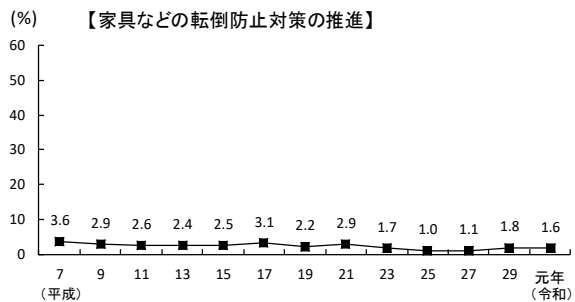
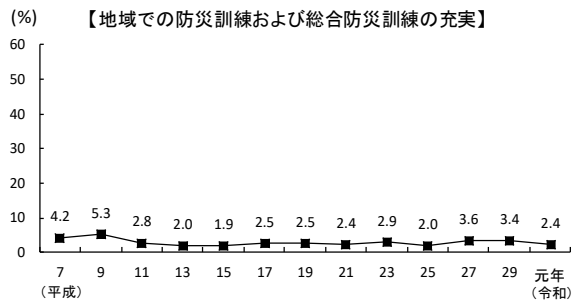
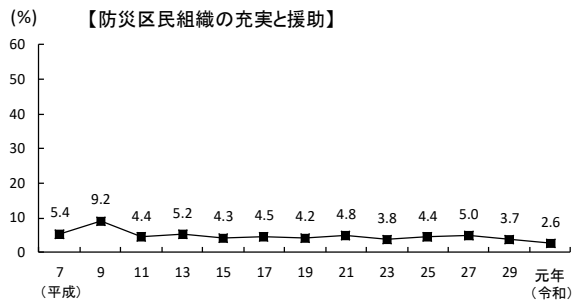
防災対策への要望—時系列比較

時系列の変化をみると、「トイレの確保など衛生対策の促進」は前回調査と比べて7ポイント高くなっている。



2 調査結果の分析
防災対策

第4章 調査結果の分析〈2 防災対策〉



防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、「非常用食料・水などの応急物資の確保」は男性の方が女性より7ポイント高くなっている。

性別×年齢で見ると、第1位はすべて「非常用食料・水などの応急物資の確保」となっており、男性60～69歳で6割近くとなっている。

防災対策への要望－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,668	応急物資の確保 47.8	衛生対策の促進 31.2	情報収集等の充実 20.3	要配慮者対策の充実 18.6	水防対策の促進・充実 15.6
性別	男性	728	応急物資の確保 51.8	衛生対策の促進 27.9	情報収集等の充実 18.5	水防対策の促進・充実／要配慮者対策の充実 16.5	
	女性	920	応急物資の確保 45.0	衛生対策の促進 34.2	情報収集等の充実 21.3	要配慮者対策の充実 20.5	水防対策の促進・充実 15.1
年齢	18～29歳	154	応急物資の確保 50.0	衛生対策の促進 24.0	避難所の備蓄倉庫配備 22.1	水防対策の促進・充実 18.2	情報収集等の充実 17.5
	30～39歳	246	応急物資の確保 47.6	衛生対策の促進 31.3	要配慮者対策の充実 19.1	情報収集等の充実 16.3	水防対策の促進・充実 15.0
	40～49歳	359	応急物資の確保 50.1	衛生対策の促進 34.0	情報収集等の充実 20.6	避難所の備蓄倉庫配備 18.7	水防対策の促進・充実 17.3
	50～59歳	295	応急物資の確保 48.1	衛生対策の促進 34.2	情報収集等の充実 24.1	水防対策の促進・充実 16.3	避難場所の整備・PR 15.6
	60～69歳	240	応急物資の確保 52.1	衛生対策の促進 33.8	情報収集等の充実 21.3	要配慮者対策の充実 19.6	水防対策の促進・充実 16.3
	70歳以上	354	応急物資の確保 42.4	要配慮者対策の充実 35.9	衛生対策の促進 28.0	情報収集等の充実 19.2	水防対策の促進・充実 13.0
男性×年齢	18～29歳	76	応急物資の確保 53.9	避難所の備蓄倉庫配備／水防対策の促進・充実 21.1	液状化対策とPRの充実／衛生対策の促進 18.4		
	30～39歳	108	応急物資の確保 49.1	衛生対策の促進 32.4	避難所の備蓄倉庫配備／情報収集等の充実／水防対策の促進・充実 14.8		
	40～49歳	158	応急物資の確保 53.2	衛生対策の促進 27.8	水防対策の促進・充実 20.9	情報収集等の充実 19.0	避難所の備蓄倉庫配備 16.5
	50～59歳	145	応急物資の確保 53.8	衛生対策の促進 35.2	情報収集等の充実 21.4	避難場所の整備・PR 17.9	避難所の備蓄倉庫配備／要配慮者対策の充実 13.1
	60～69歳	97	応急物資の確保 57.7	衛生対策の促進 26.8	情報収集等の充実 21.6	要配慮者対策の充実 17.5	避難所の備蓄倉庫配備／水防対策の促進・充実 16.5
	70歳以上	144	応急物資の確保 45.1	要配慮者対策の充実 32.6	衛生対策の促進 22.9	情報収集等の充実 18.1	水防対策の促進・充実 16.0
女性×年齢	18～29歳	77	応急物資の確保 46.8	衛生対策の促進 29.9	避難所の備蓄倉庫配備 23.4	情報収集等の充実 20.8	住居の耐震診断 18.2
	30～39歳	138	応急物資の確保 46.4	衛生対策の促進 30.4	要配慮者対策の充実 23.9	情報収集等の充実 17.4	水防対策の促進・充実／避難場所の整備・PR 15.2
	40～49歳	201	応急物資の確保 47.8	衛生対策の促進 38.8	情報収集等の充実 21.9	避難所の備蓄倉庫配備 20.4	水防対策の促進・充実 14.4
	50～59歳	150	応急物資の確保 42.7	衛生対策の促進 33.3	情報収集等の充実 26.7	水防対策の促進・充実 21.3	避難場所の整備・PR 13.3
	60～69歳	143	応急物資の確保 48.3	衛生対策の促進 38.5	情報収集等の充実／要配慮者対策の充実 21.0		避難場所の整備・PR 19.6
	70歳以上	210	応急物資の確保 40.5	要配慮者対策の充実 38.1	衛生対策の促進 31.4	情報収集等の充実 20.0	避難場所の整備・PR 11.4

3 ごみ・リサイクル

-
- (1) ごみを減らす活動の取り組み状況
 - (2) ごみを減らすために行っている取り組み
-

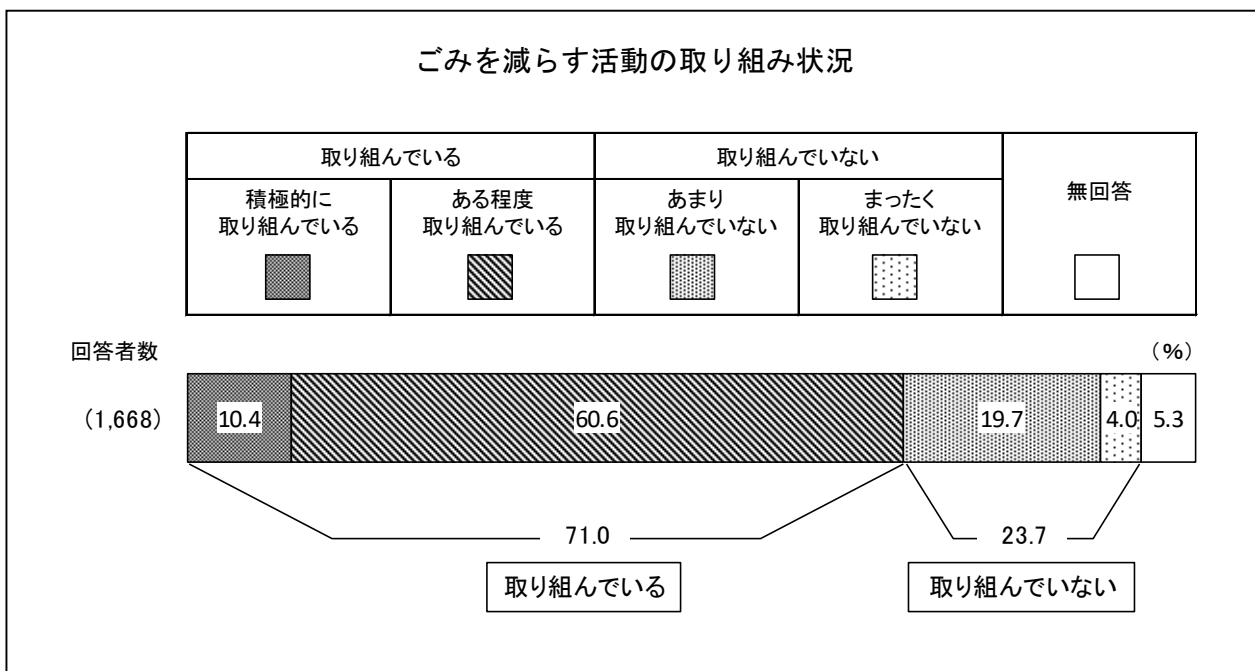
3 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らす活動の取り組み状況

◇《取り組んでいる》は7割を超える

問7	あなたは、日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいますか。 次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,668)				
1	積極的に取り組んでいる	10.4%	3	あまり取り組んでいない	19.7%
2	ある程度取り組んでいる	60.6%	4	まったく取り組んでいない	4.0%
				無回答	5.3%

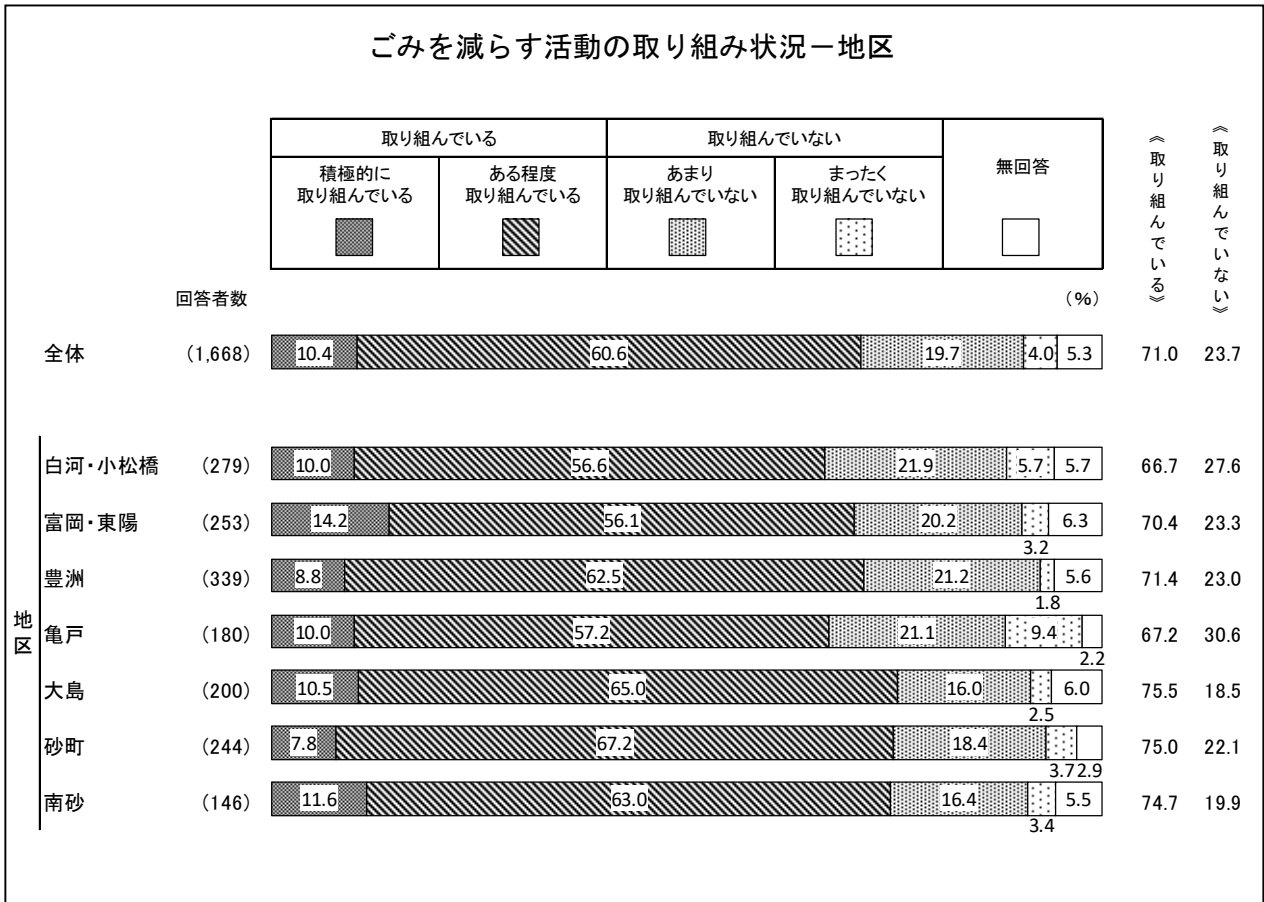
日頃ごみを減らす活動にどのくらい取り組んでいるか聞いたところ、「積極的に取り組んでいる」(10.4%)と「ある程度取り組んでいる」(60.6%)の2つを合わせた《取り組んでいる》(71.0%)は7割を超えている。一方、「あまり取り組んでいない」(23.7%)と「まったく取り組んでいない」(4.0%)の2つを合わせた《取り組んでいない》(23.7%)は2割を超えている。



3 調査結果の分析
ごみ・リサイクル

ごみを減らす活動の取り組み状況－地区

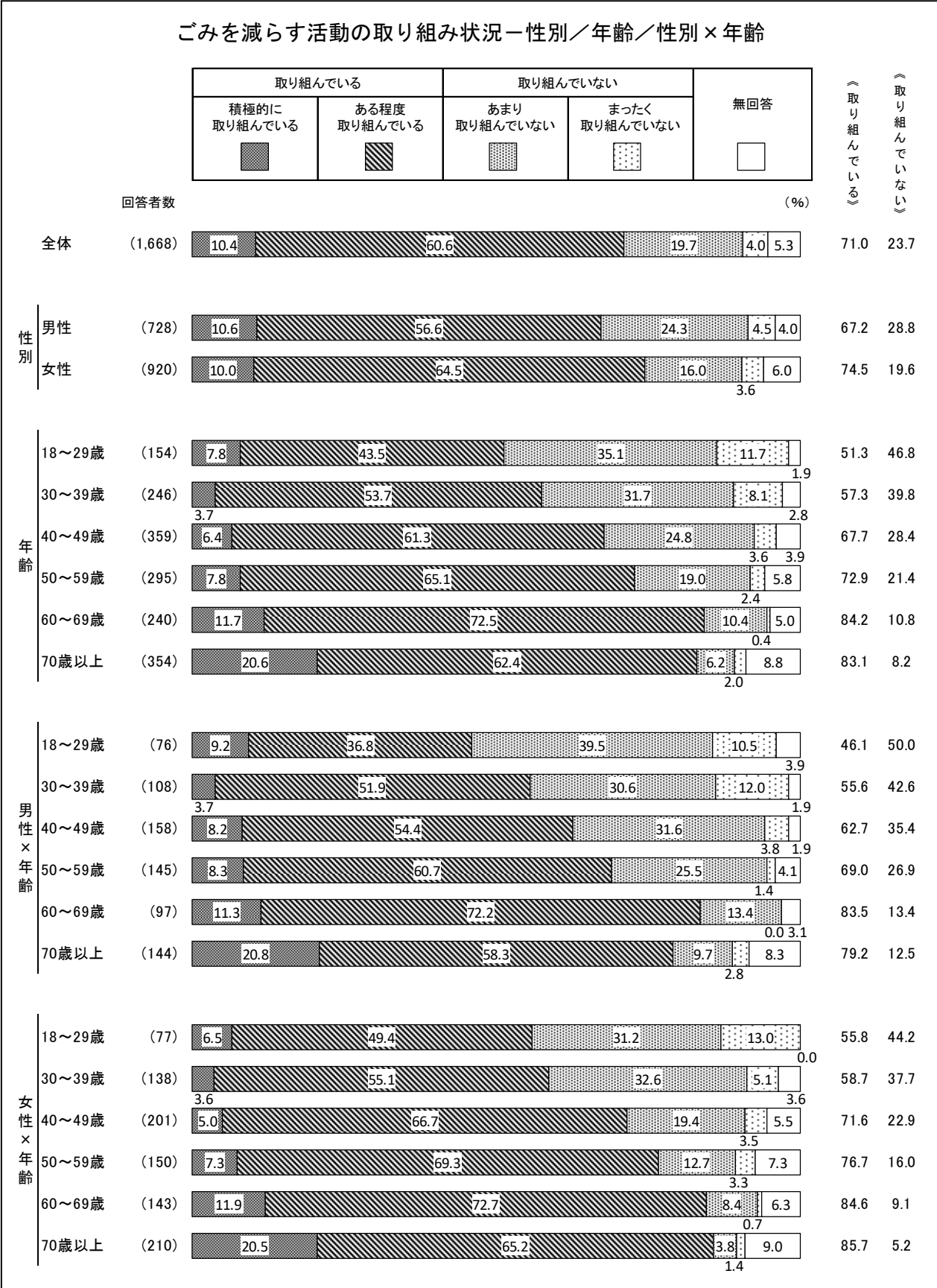
地区で見ると、《取り組んでいる》は大島地区、砂町地区、南砂地区で7割台半ばとなっている。一方、《取り組んでいない》は亀戸地区でほぼ3割となっている。



ごみを減らす活動の取り組み状況－性別／年齢／性別×年齢

性別で見ると、《取り組んでいる》は女性の方が男性より7ポイント高くなっている。一方、《取り組んでいない》は男性の方が女性より9ポイント高くなっている。

性別×年齢で見ると、《取り組んでいる》は男女とも高い年代ほど割合が高く、女性70歳以上で8割台半ばとなっている。一方、《取り組んでいない》は男性18～29歳で5割となっている。



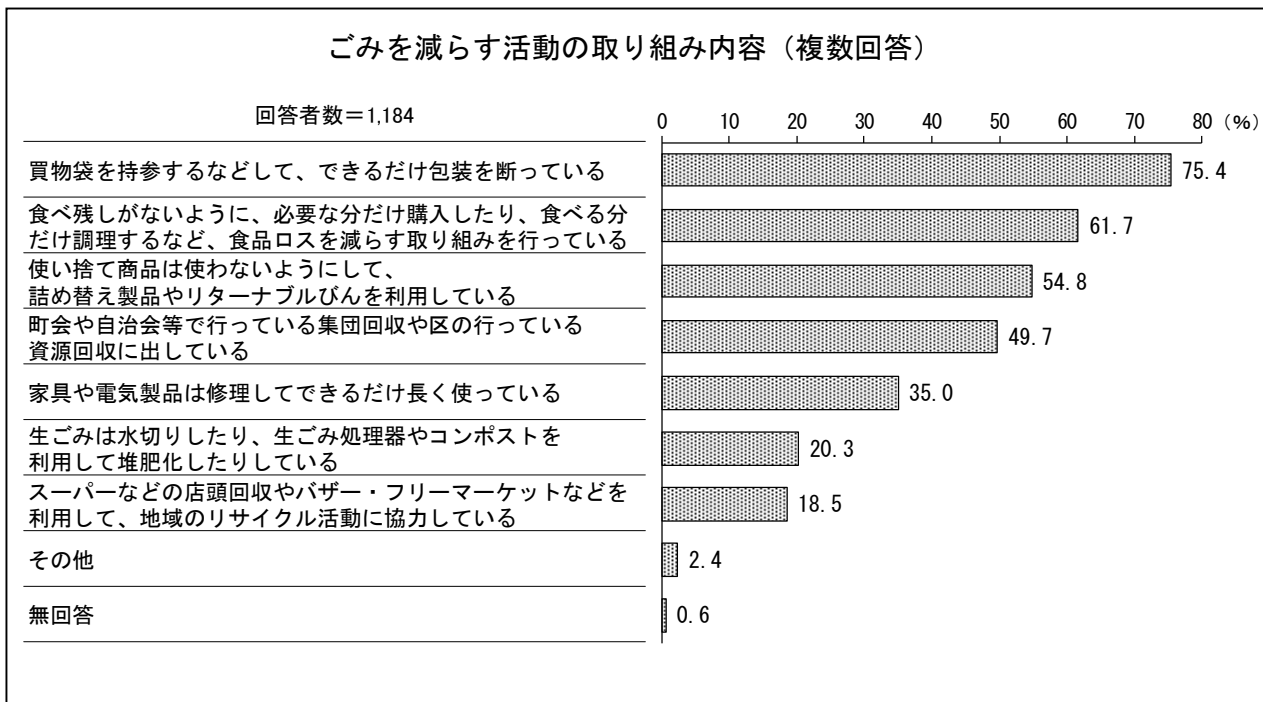
3 調査結果の分析
ごみ・リサイクル

(2) ごみを減らすために行っている取り組み

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が7割台半ば

問7-1	(問7で、「1 積極的に取り組んでいる」か「2 ある程度取り組んでいる」とお答えの方に) あなたは、ごみを減らすために、どのような取り組みをなさっていますか。 次の中から当てはまるものをすべて選んでください。(回答者数=1,184)	
1	家具や電気製品は修理してできるだけ長く使っている	35.0%
2	買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている	75.4%
3	使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している	54.8%
4	生ごみは水切りしたり、生ごみ処理器やコンポストを利用して堆肥化したりしている	20.3%
5	スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している	18.5%
6	町会や自治会等で行っている集団回収や区で行っている資源回収に出している	49.7%
7	食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている	61.7%
8	その他	2.4%
	無回答	0.6%

ごみを減らす活動の取り組み内容を聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(75.4%)が7割台半ばで最も多く、次いで「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(61.7%)、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」(54.8%)と続いている。



ぐみを減らす活動の取り組み内容－地区

地区で見ると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は南砂地区で9割を超えている。「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」は豊洲地区と大島地区で6割台半ばとなっている。

ぐみを減らす活動の取り組み内容－地区（上位5項目）

		(%)					
	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	1,184	買物袋の持参 75.4	食品ロスを減らす取組 61.7	使い捨て商品は使わない 54.8	集団回収等の活用 49.7	家具や電気製品の修理 35.0	
地区	白河・小松橋	186	買物袋の持参 75.3	食品ロスを減らす取組 62.9	使い捨て商品は使わない 60.8	集団回収等の活用 51.1	家具や電気製品の修理 37.1
	富岡・東陽	178	買物袋の持参 73.0	使い捨て商品は使わない 61.8	食品ロスを減らす取組 56.7	集団回収等の活用 52.2	家具や電気製品の修理 32.6
	豊洲	242	買物袋の持参 73.1	食品ロスを減らす取組 64.0	使い捨て商品は使わない 50.0	集団回収等の活用 39.3	家具や電気製品の修理 38.4
	亀戸	121	買物袋の持参 66.1	食品ロスを減らす取組 60.3	使い捨て商品は使わない 53.7	集団回収等の活用 51.2	家具や電気製品の修理 32.2
	大島	151	買物袋の持参 74.2	食品ロスを減らす取組 66.2	使い捨て商品は使わない 52.3	集団回収等の活用 51.7	家具や電気製品の修理 37.1
	砂町	183	買物袋の持参 77.6	食品ロスを減らす取組 61.7	集団回収等の活用 60.1	使い捨て商品は使わない 52.5	家具や電気製品の修理 36.1
	南砂	109	買物袋の持参 92.7	使い捨て商品は使わない／食品ロスを減らす取組 56.0	集団回収等の活用 42.2	家具や電気製品の修理 27.5	

ごみを減らす活動の取り組み内容－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「使い捨て商品は使わないようにして、詰め替え製品やリターナブルびんを利用している」は女性の方が男性より 15 ポイント高くなっている。また、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性の方が男性より 14 ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」は女性 60～69 歳で 9 割近くとなっている。「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスが減らす取り組みを行っている」は女性 30～39 歳でほぼ 7 割となっている。

ごみを減らす活動の取り組み内容－性別／年齢／性別×年齢

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,184	買物袋の持参 75.4	食品ロスを減らす取組 61.7	使い捨て商品は使わない 54.8	集団回収等の活用 49.7	家具や電気製品の修理 35.0
性別	男性	489	買物袋の持参 67.1	食品ロスを減らす取組 56.9	集団回収等の活用 47.2	使い捨て商品は使わない 46.6	家具や電気製品の修理 35.8
	女性	685	買物袋の持参 81.5	食品ロスを減らす取組 64.8	使い捨て商品は使わない 61.2	集団回収等の活用 51.5	家具や電気製品の修理 34.5
年齢	18～29歳	79	買物袋の持参 68.4	食品ロスを減らす取組 67.1	使い捨て商品は使わない 54.4	家具や電気製品の修理 30.4	集団回収等の活用 26.6
	30～39歳	141	買物袋の持参 72.3	食品ロスを減らす取組 68.1	使い捨て商品は使わない 57.4	家具や電気製品の修理／集団回収等の活用 32.6	
	40～49歳	243	買物袋の持参 73.3	使い捨て商品は使わない 63.0	食品ロスを減らす取組 58.8	集団回収等の活用 43.2	家具や電気製品の修理 33.7
	50～59歳	215	買物袋の持参 70.7	食品ロスを減らす取組 62.3	使い捨て商品は使わない 60.5	集団回収等の活用 45.6	家具や電気製品の修理 40.9
	60～69歳	202	買物袋の持参 81.2	集団回収等の活用 57.4	使い捨て商品は使わない 56.9	食品ロスを減らす取組 55.0	家具や電気製品の修理 38.6
	70歳以上	294	買物袋の持参 79.9	集団回収等の活用 67.0	食品ロスを減らす取組 62.9	使い捨て商品は使わない 42.2	家具や電気製品の修理 31.6
男性×年齢	18～29歳	35	買物袋の持参 71.4	食品ロスを減らす取組 65.7	使い捨て商品は使わない 45.7	家具や電気製品の修理 37.1	集団回収等の活用 31.4
	30～39歳	60	食品ロスを減らす取組 66.7	買物袋の持参 63.3	使い捨て商品は使わない 48.3	家具や電気製品の修理 35.0	集団回収等の活用 33.3
	40～49歳	99	買物袋の持参 62.6	使い捨て商品は使わない 55.6	食品ロスを減らす取組 54.5	集団回収等の活用 41.4	家具や電気製品の修理 30.3
	50～59歳	100	買物袋の持参 62.0	食品ロスを減らす取組 59.0	使い捨て商品は使わない 54.0	家具や電気製品の修理／集団回収等の活用 41.0	
	60～69歳	81	買物袋の持参 72.8	集団回収等の活用 59.3	使い捨て商品は使わない／食品ロスを減らす取組 42.0		家具や電気製品の修理 40.7
	70歳以上	114	買物袋の持参 71.9	集団回収等の活用 61.4	食品ロスを減らす取組 59.6	使い捨て商品は使わない 35.1	家具や電気製品の修理 32.5
女性×年齢	18～29歳	43	買物袋の持参／食品ロスを減らす取組 67.4		使い捨て商品は使わない 62.8	家具や電気製品の修理／集団回収等の活用 23.3	
	30～39歳	81	買物袋の持参 79.0	食品ロスを減らす取組 69.1	使い捨て商品は使わない 64.2	集団回収等の活用 32.1	家具や電気製品の修理 30.9
	40～49歳	144	買物袋の持参 80.6	使い捨て商品は使わない 68.1	食品ロスを減らす取組 61.8	集団回収等の活用 44.4	家具や電気製品の修理 36.1
	50～59歳	115	買物袋の持参 78.3	使い捨て商品は使わない 66.1	食品ロスを減らす取組 65.2	集団回収等の活用 49.6	家具や電気製品の修理 40.9
	60～69歳	121	買物袋の持参 86.8	使い捨て商品は使わない 66.9	食品ロスを減らす取組 63.6	集団回収等の活用 56.2	家具や電気製品の修理 37.2
	70歳以上	180	買物袋の持参 85.0	集団回収等の活用 70.6	食品ロスを減らす取組 65.0	使い捨て商品は使わない 46.7	家具や電気製品の修理 31.1

第4章 調査結果の分析
3 ごみ・リサイクル

4 交通

-
- (1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じる事
 - (2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの
 - (3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え
-

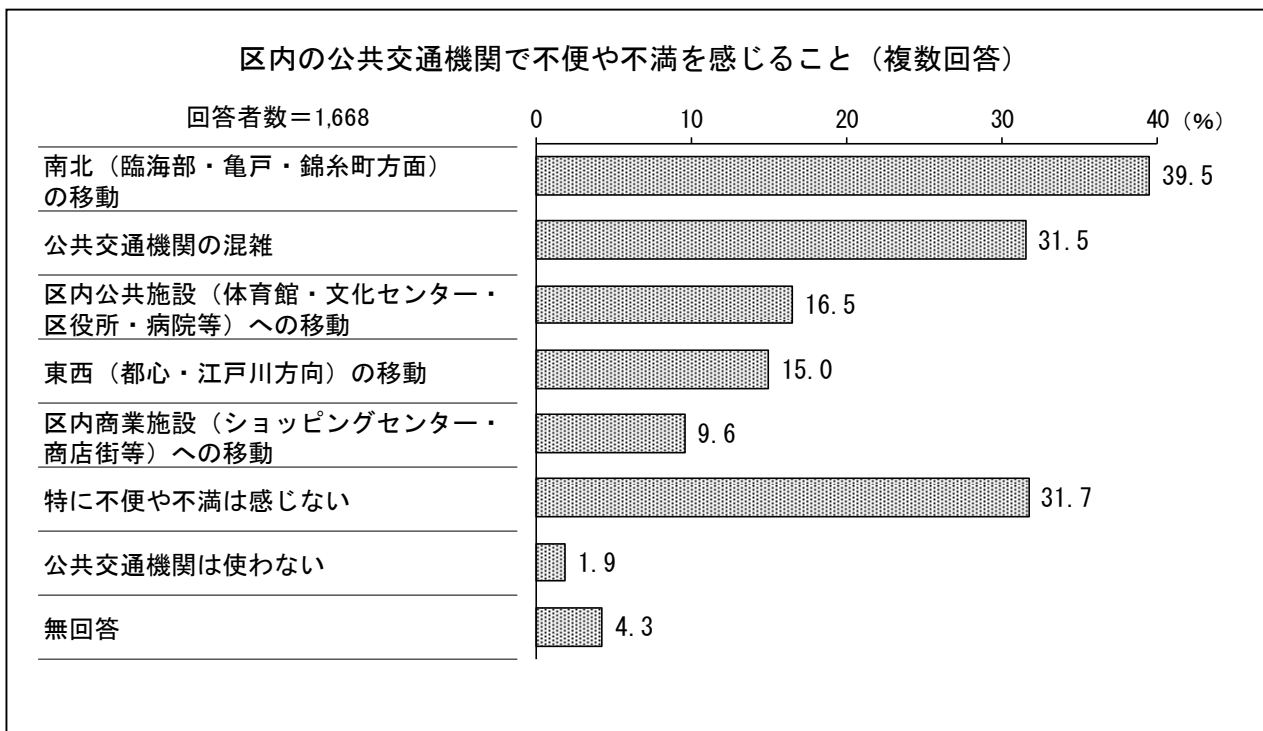
4 交通

(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」が4割

問8	あなたは、区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることはありませんか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。（回答者数=1,668）	
1	東西（都心・江戸川方向）の移動	15.0%
2	南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動	39.5%
3	区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動	16.5%
4	区内商業施設（ショッピングセンター・商店街等）への移動	9.6%
5	公共交通機関の混雑	31.5%
6	特に不便や不満は感じない	31.7%
7	公共交通機関は使わない	1.9%
	無回答	4.3%

区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（39.5%）が4割で最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（31.5%）、「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動」（16.5%）と続いている。一方、「特に不便や不満は感じない」（31.7%）は3割を超えている。



区内の公共交通機関で不便や不満を感じること一地区

地区でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は豊洲地区で5割近くとなっている。「不便や不満は感じない」は豊洲地区を除いてほぼ3割前後となっている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること一地区

(%)

	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は感じない	公共交通機関は使わない
全体	1,668	南北の移動 39.5	公共交通機関の混雑 31.5	区内公共施設への移動 16.5	東西の移動 15.0	区内商業施設への移動 9.6	31.7	1.9
地区	白河・小松橋	南北の移動 31.9	公共交通機関の混雑 21.5	区内公共施設への移動 16.1	区内商業施設への移動 13.6	東西の移動 13.3	35.1	3.2
	富岡・東陽	公共交通機関の混雑 36.8	南北の移動 31.6	区内公共施設への移動 12.6	東西の移動 11.9	区内商業施設への移動 8.3	34.0	0.4
	豊洲	南北の移動 48.1	公共交通機関の混雑 26.3	区内公共施設への移動 23.3	東西の移動 21.8	区内商業施設への移動 12.4	23.9	1.5
	亀戸	南北の移動 39.4	公共交通機関の混雑 32.2	区内公共施設への移動 16.1	東西の移動 12.2	区内商業施設への移動 8.3	31.1	3.9
	大島	南北の移動 39.0	公共交通機関の混雑 32.5	区内公共施設への移動 16.5	東西の移動 10.5	区内商業施設への移動 8.0	36.0	2.0
	砂町	南北の移動 45.5	公共交通機関の混雑 36.1	東西の移動 14.3	区内公共施設への移動 12.7	区内商業施設への移動 7.8	34.0	2.0
	南砂	公共交通機関の混雑 45.2	南北の移動 44.5	東西の移動 19.9	区内公共施設への移動 15.1	区内商業施設への移動 5.5	28.8	0.0

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動」は女性の方が男性より5ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は男性40～49歳で5割を超えている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

(%)

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は感じない	公共交通機関は使わない
全体		1,668	南北の移動 39.5	公共交通機関の混雑 31.5	区内公共施設への移動 16.5	東西の移動 15.0	区内商業施設への移動 9.6	27.8	6.5
性別	男性	728	南北の移動 41.8	公共交通機関の混雑 32.1	東西の移動／区内公共施設への移動 13.7	区内商業施設への移動 9.1		21.4	1.4
	女性	920	南北の移動 38.2	公共交通機関の混雑 31.0	区内公共施設への移動 18.6	東西の移動 16.0	区内商業施設への移動 9.9	52.1	2.1
年齢	18～29歳	154	南北の移動 37.0	公共交通機関の混雑 33.8	東西の移動 15.6	区内公共施設への移動 7.8	区内商業施設への移動 6.5	22.5	2.2
	30～39歳	246	南北の移動 42.3	公共交通機関の混雑 35.0	東西の移動 18.3	区内公共施設への移動 14.6	区内商業施設への移動 10.2	21.3	1.3
	40～49歳	359	南北の移動 48.5	公共交通機関の混雑 38.7	東西の移動 17.5	区内公共施設への移動 17.3	区内商業施設への移動 10.0	50.0	1.9
	50～59歳	295	南北の移動 47.8	公共交通機関の混雑 36.6	区内公共施設への移動 15.9	東西の移動 15.6	区内商業施設への移動 10.2	21.4	1.4
	60～69歳	240	南北の移動 35.8	公共交通機関の混雑 29.6	区内公共施設への移動 15.8	東西の移動 12.5	区内商業施設への移動 5.4	38.3	1.7
	70歳以上	354	南北の移動 26.3	区内公共施設への移動 21.5	公共交通機関の混雑 17.8	区内商業施設への移動 12.1	東西の移動 11.0	50.8	2.0
男性×年齢	18～29歳	76	南北の移動／公共交通機関の混雑 35.5	東西の移動 10.5	区内公共施設への移動／区内商業施設への移動 3.9			28.9	2.6
	30～39歳	108	公共交通機関の混雑 37.0	南北の移動 36.1	東西の移動／区内公共施設への移動 13.9	区内商業施設への移動 10.2		27.8	6.5
	40～49歳	158	南北の移動 51.3	公共交通機関の混雑 36.1	東西の移動 19.0	区内公共施設への移動 13.3	区内商業施設への移動 9.5	25.3	1.3
	50～59歳	145	南北の移動 49.7	公共交通機関の混雑 37.2	東西の移動 14.5	区内商業施設への移動 11.0	区内公共施設への移動 10.3	21.4	1.4
	60～69歳	97	南北の移動 39.2	公共交通機関の混雑 32.0	区内公共施設への移動 17.5	東西の移動 12.4	区内商業施設への移動 5.2	40.2	3.1
	70歳以上	144	南北の移動 32.6	区内公共施設への移動 20.1	公共交通機関の混雑 17.4	区内商業施設への移動 11.1	東西の移動 9.7	52.1	2.1
女性×年齢	18～29歳	77	南北の移動 37.7	公共交通機関の混雑 31.2	東西の移動 19.5	区内公共施設への移動 10.4	区内商業施設への移動 7.8	31.2	2.6
	30～39歳	138	南北の移動 47.1	公共交通機関の混雑 33.3	東西の移動 21.7	区内公共施設への移動 15.2	区内商業施設への移動 10.1	22.5	2.2
	40～49歳	201	南北の移動 46.3	公共交通機関の混雑 40.8	区内公共施設への移動 20.4	東西の移動 16.4	区内商業施設への移動 10.4	20.9	0.0
	50～59歳	150	南北の移動 46.0	公共交通機関の混雑 36.0	区内公共施設への移動 21.3	東西の移動 16.7	区内商業施設への移動 9.3	21.3	1.3
	60～69歳	143	南北の移動 33.6	公共交通機関の混雑 28.0	区内公共施設への移動 14.7	東西の移動 12.6	区内商業施設への移動 5.6	37.1	0.7
	70歳以上	210	区内公共施設への移動 22.4	南北の移動 21.9	公共交通機関の混雑 18.1	区内商業施設への移動 12.9	東西の移動 11.9	50.0	1.9

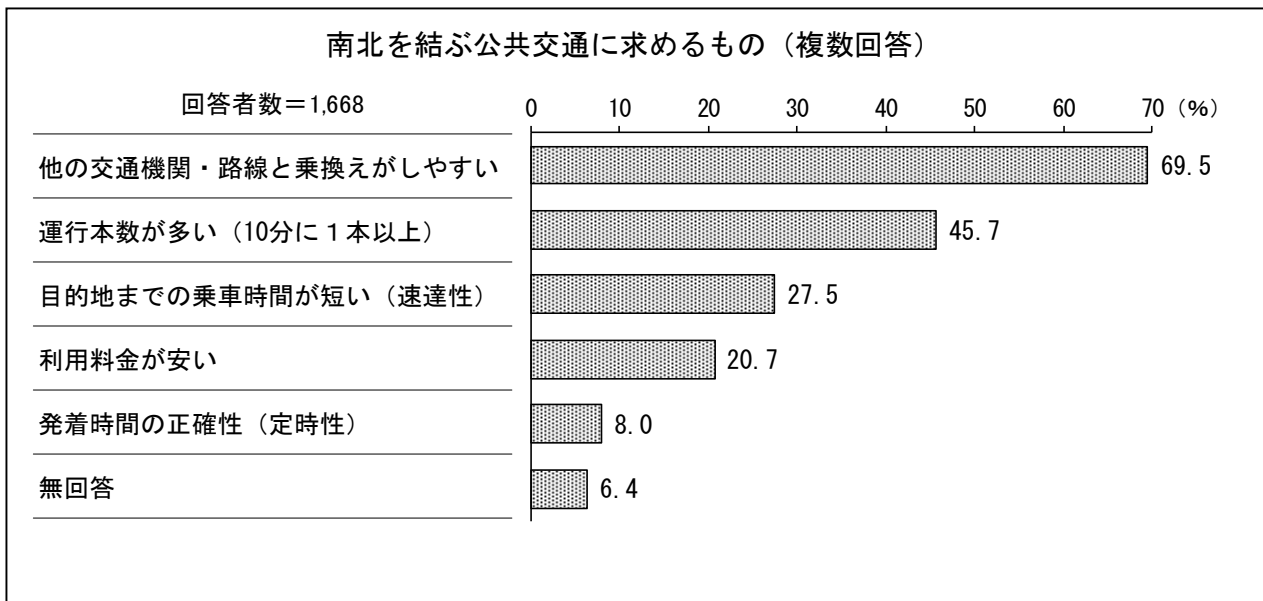
4 調査結果の分析
交通

(2) 南北を結ぶ公共交通に求めるもの

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が7割

問9	区では、南北を結ぶ公共交通の充実を重点課題として位置付け、有楽町線の延伸(豊洲～住吉間)やバス路線の拡充等を検討しています。あなたが、南北を結ぶ公共交通に求めるものを、次の中から <u>2つまで</u> 選んでください。(回答者数=1,668)	
1	他の交通機関・路線と乗換えがしやすい	69.5%
2	目的地までの乗車時間が短い(速達性)	27.5%
3	運行本数が多い(10分に1本以上)	45.7%
4	発着時間の正確性(定時性)	8.0%
5	利用料金が安い	20.7%
	無回答	6.4%

南北を結ぶ公共交通に求めるものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」(69.5%)が7割で最も多く、次いで「運行本数が多い(10分に1本以上)」(45.7%)、「目的地までの乗車時間が短い(速達性)」(27.5%)と続いている。



南北を結ぶ公共交通に求めるもの一地区

地区でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は白河・小松橋地区、富岡・東陽地区、亀戸地区、大島地区、南砂地区で7割以上となっている。「運行本数が多い(10分に1本以上)」は砂町地区で5割を超えている。

南北を結ぶ公共交通に求めるもの一地区

		(%)					
	回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	1,668	他の交通機関へ乗換え 69.5	運行本数が多い 45.7	乗車時間が短い 27.5	利用料金が安い 20.7	発着時間の正確性 8.0	
地区	白河・小松橋	279	他の交通機関へ乗換え 72.0	運行本数が多い 49.5	乗車時間が短い 21.9	利用料金が安い 19.0	発着時間の正確性 10.4
	富岡・東陽	253	他の交通機関へ乗換え 73.1	運行本数が多い 43.1	乗車時間が短い 26.1	利用料金が安い 19.4	発着時間の正確性 8.3
	豊洲	339	他の交通機関へ乗換え 64.0	運行本数が多い 47.5	乗車時間が短い 32.7	利用料金が安い 20.4	発着時間の正確性 7.7
	亀戸	180	他の交通機関へ乗換え 73.9	運行本数が多い 40.6	乗車時間が短い 30.0	利用料金が安い 20.0	発着時間の正確性 6.7
	大島	200	他の交通機関へ乗換え 72.0	運行本数が多い 37.5	乗車時間が短い 34.0	利用料金が安い 25.0	発着時間の正確性 8.0
	砂町	244	他の交通機関へ乗換え 65.2	運行本数が多い 53.3	乗車時間が短い 27.5	利用料金が安い 20.1	発着時間の正確性 4.5
	南砂	146	他の交通機関へ乗換え 72.6	運行本数が多い 46.6	乗車時間が短い 24.7	利用料金が安い 18.5	発着時間の正確性 12.3

南北を結ぶ公共交通に求めるもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は女性の方が男性より3ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」は女性18～29歳と女性50～59歳で7割台半ば、「運行本数が多い(10分に1本以上)」は女性30～39歳と女性40～49歳で5割台半ばとなっている。

南北を結ぶ公共交通に求めるもの－性別／年齢／性別×年齢

(%)

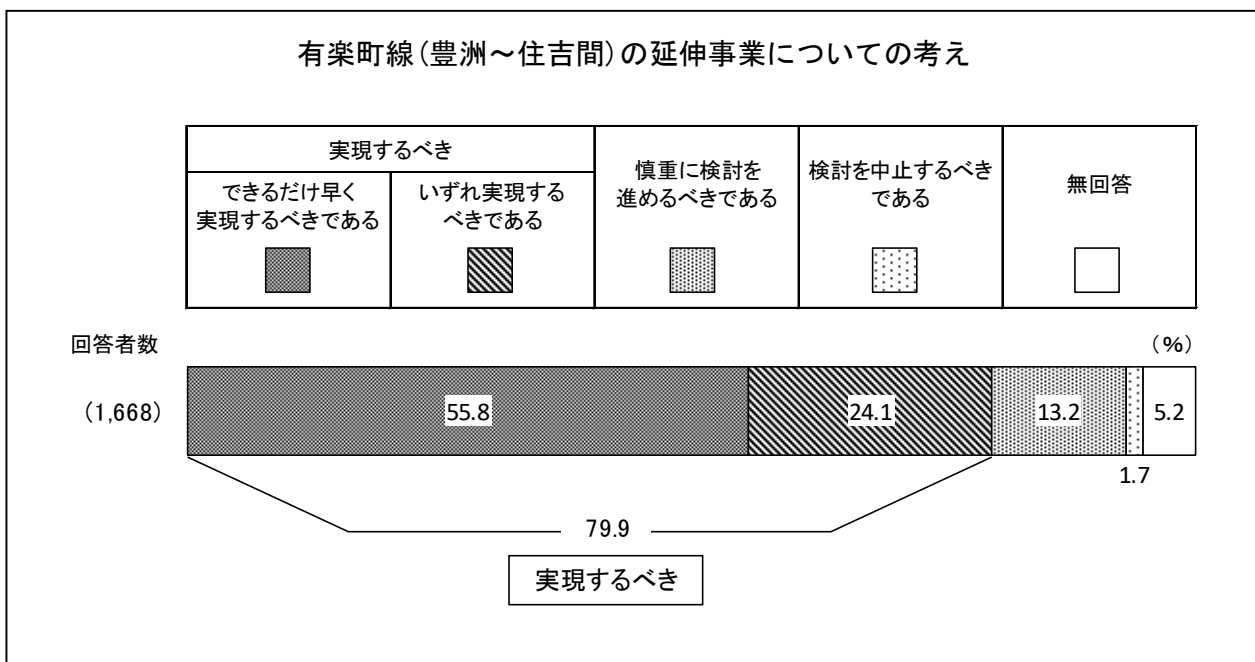
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,668	他の交通機関へ乗換え 69.5	運行本数が多い 45.7	乗車時間が短い 27.5	利用料金が安い 20.7	発着時間の正確性 8.0
性別	男性	728	他の交通機関へ乗換え 68.3	運行本数が多い 45.2	乗車時間が短い 29.0	利用料金が安い 21.4	発着時間の正確性 8.2
	女性	920	他の交通機関へ乗換え 70.9	運行本数が多い 46.4	乗車時間が短い 26.7	利用料金が安い 20.1	発着時間の正確性 7.7
年齢	18～29歳	154	他の交通機関へ乗換え 70.1	運行本数が多い 46.1	乗車時間が短い 36.4	利用料金が安い 20.8	発着時間の正確性 10.4
	30～39歳	246	他の交通機関へ乗換え 69.9	運行本数が多い 52.0	乗車時間が短い 34.1	利用料金が安い 13.4	発着時間の正確性 8.1
	40～49歳	359	他の交通機関へ乗換え 70.5	運行本数が多い 54.0	乗車時間が短い 31.2	利用料金が安い 20.9	発着時間の正確性 3.9
	50～59歳	295	他の交通機関へ乗換え 73.6	運行本数が多い 42.4	乗車時間が短い 27.5	利用料金が安い 24.7	発着時間の正確性 6.8
	60～69歳	240	他の交通機関へ乗換え 70.8	運行本数が多い 41.7	利用料金が安い 27.9	乗車時間が短い 26.7	発着時間の正確性 8.3
	70歳以上	354	他の交通機関へ乗換え 65.0	運行本数が多い 38.7	乗車時間が短い／利用料金が安い 16.9		発着時間の正確性 11.9
性別×年齢	18～29歳	76	他の交通機関へ乗換え 64.5	運行本数が多い 51.3	乗車時間が短い 35.5	利用料金が安い 21.1	発着時間の正確性 9.2
	30～39歳	108	他の交通機関へ乗換え 71.3	運行本数が多い 49.1	乗車時間が短い 34.3	利用料金が安い 11.1	発着時間の正確性 7.4
	40～49歳	158	他の交通機関へ乗換え 71.5	運行本数が多い 53.2	乗車時間が短い 34.2	利用料金が安い 19.6	発着時間の正確性 3.8
	50～59歳	145	他の交通機関へ乗換え 73.1	運行本数が多い 41.4	利用料金が安い 31.0	乗車時間が短い 24.1	発着時間の正確性 4.1
	60～69歳	97	他の交通機関へ乗換え 67.0	運行本数が多い 39.2	乗車時間が短い 32.0	利用料金が安い 30.9	発着時間の正確性 10.3
	70歳以上	144	他の交通機関へ乗換え 60.4	運行本数が多い 38.2	乗車時間が短い 18.8	利用料金が安い 16.0	発着時間の正確性 15.3
性別×年齢	18～29歳	77	他の交通機関へ乗換え 75.3	運行本数が多い 41.6	乗車時間が短い 37.7	利用料金が安い 20.8	発着時間の正確性 10.4
	30～39歳	138	他の交通機関へ乗換え 68.8	運行本数が多い 54.3	乗車時間が短い 34.1	利用料金が安い 15.2	発着時間の正確性 8.7
	40～49歳	201	他の交通機関へ乗換え 69.7	運行本数が多い 54.7	乗車時間が短い 28.9	利用料金が安い 21.9	発着時間の正確性 4.0
	50～59歳	150	他の交通機関へ乗換え 74.0	運行本数が多い 43.3	乗車時間が短い 30.7	利用料金が安い 18.7	発着時間の正確性 9.3
	60～69歳	143	他の交通機関へ乗換え 73.4	運行本数が多い 43.4	利用料金が安い 25.9	乗車時間が短い 23.1	発着時間の正確性 7.0
	70歳以上	210	他の交通機関へ乗換え 68.1	運行本数が多い 39.0	利用料金が安い 18.1	乗車時間が短い 15.7	発着時間の正確性 9.0

(3) 有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え

◇「実現すべき」は8割

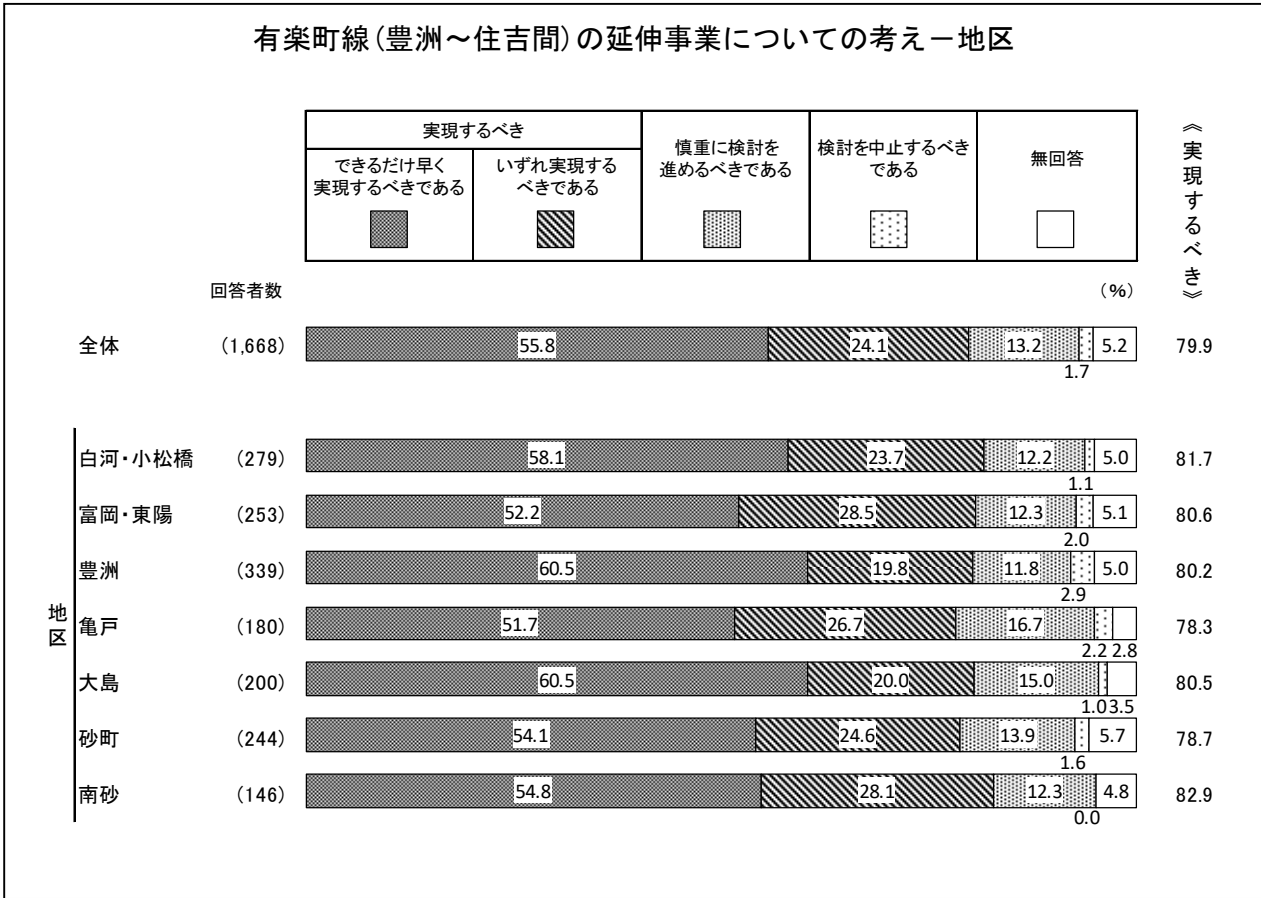
問10	区では、南北移動の利便性向上、東西線の混雑緩和などが期待される有楽町線の延伸(豊洲～住吉間)の早期実現を目指しています。あなたは有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業について、どのように考えていますか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。 (回答者数=1,668)
1	できるだけ早く実現すべきである 55.8%
2	いずれ実現すべきである 24.1%
3	慎重に検討を進めるべきである 13.2%
4	検討を中止するべきである 1.7%
	無回答 5.2%

有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考えを聞いたところ、「できるだけ早く実現すべきである」(55.8%)と「いずれ実現すべきである」(24.1%)の2つを合わせた「実現すべき」(79.9%)が8割となっている。また、「慎重に検討を進めるべきである」(13.2%)は1割を超えている。



有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え—地区

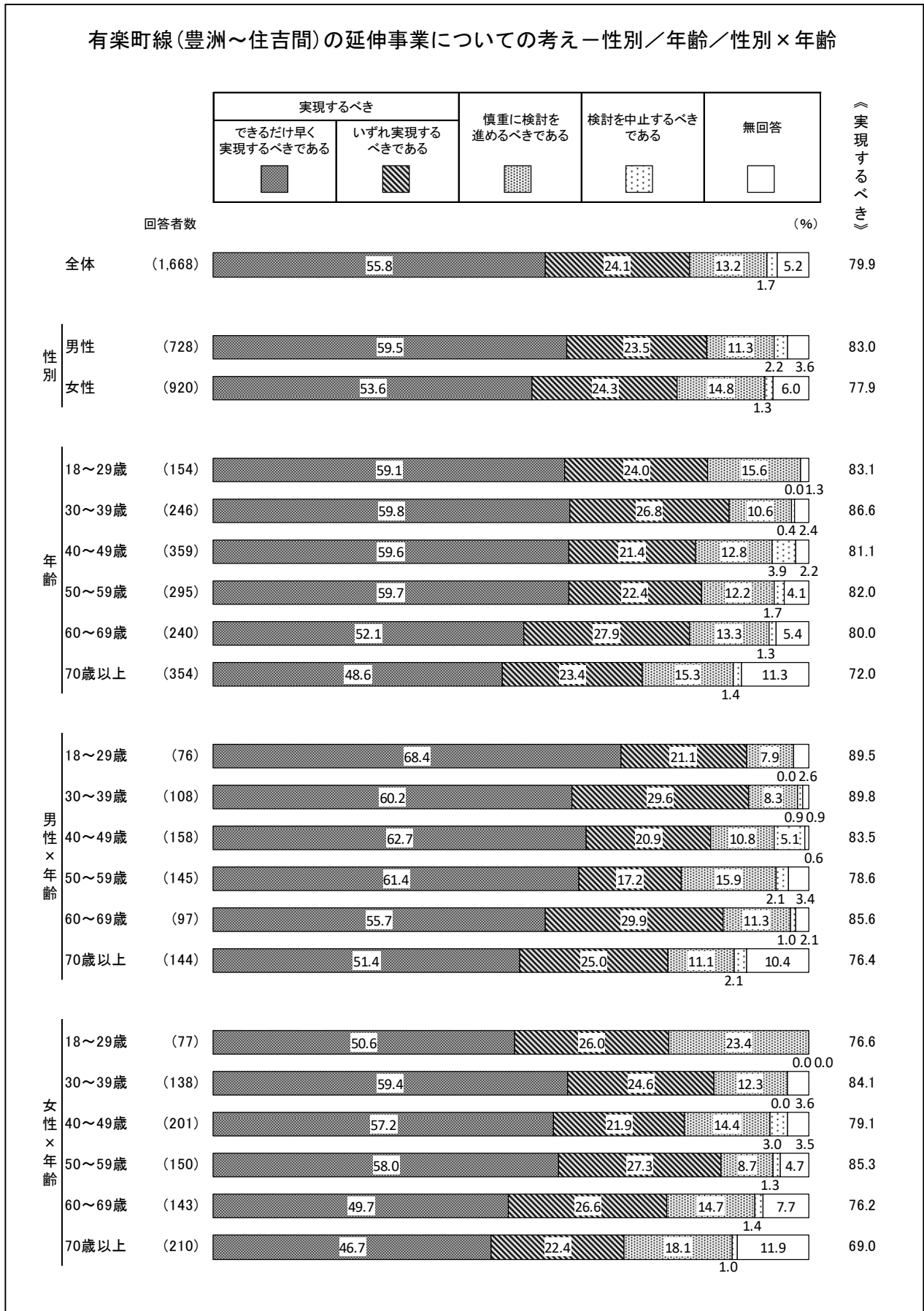
地区で見ると、「できるだけ早く実現するべきである」は豊洲地区、大島地区ではほぼ6割となっている。《実現するべき》はすべての地区で8割前後となっている。一方、「慎重に検討を進めるべきである」は亀戸地区で2割近くとなっている。



有楽町線(豊洲～住吉間)の延伸事業についての考え－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「できるだけ早く実現するべきである」は男性の方が女性より6ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「実現するべき」は男性18～29歳と男性30～39歳で9割となっている。



5 選挙

-
- (1) 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無
 - (2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの
 - (3) 投票しなかった理由
 - (4) 「選挙公報」の閲読状況
-

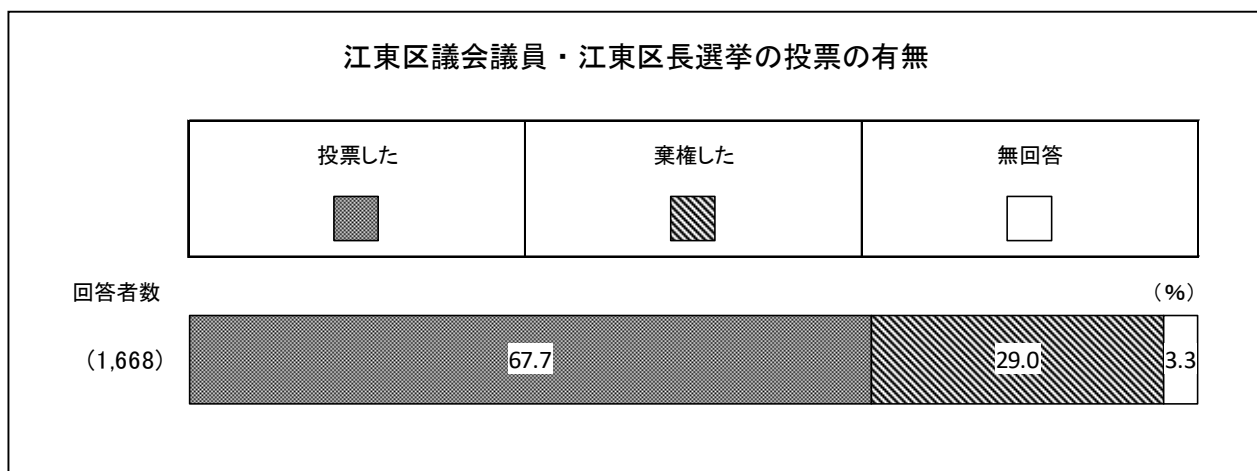
5 選挙

(1) 江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無

◇「投票した」が7割近く

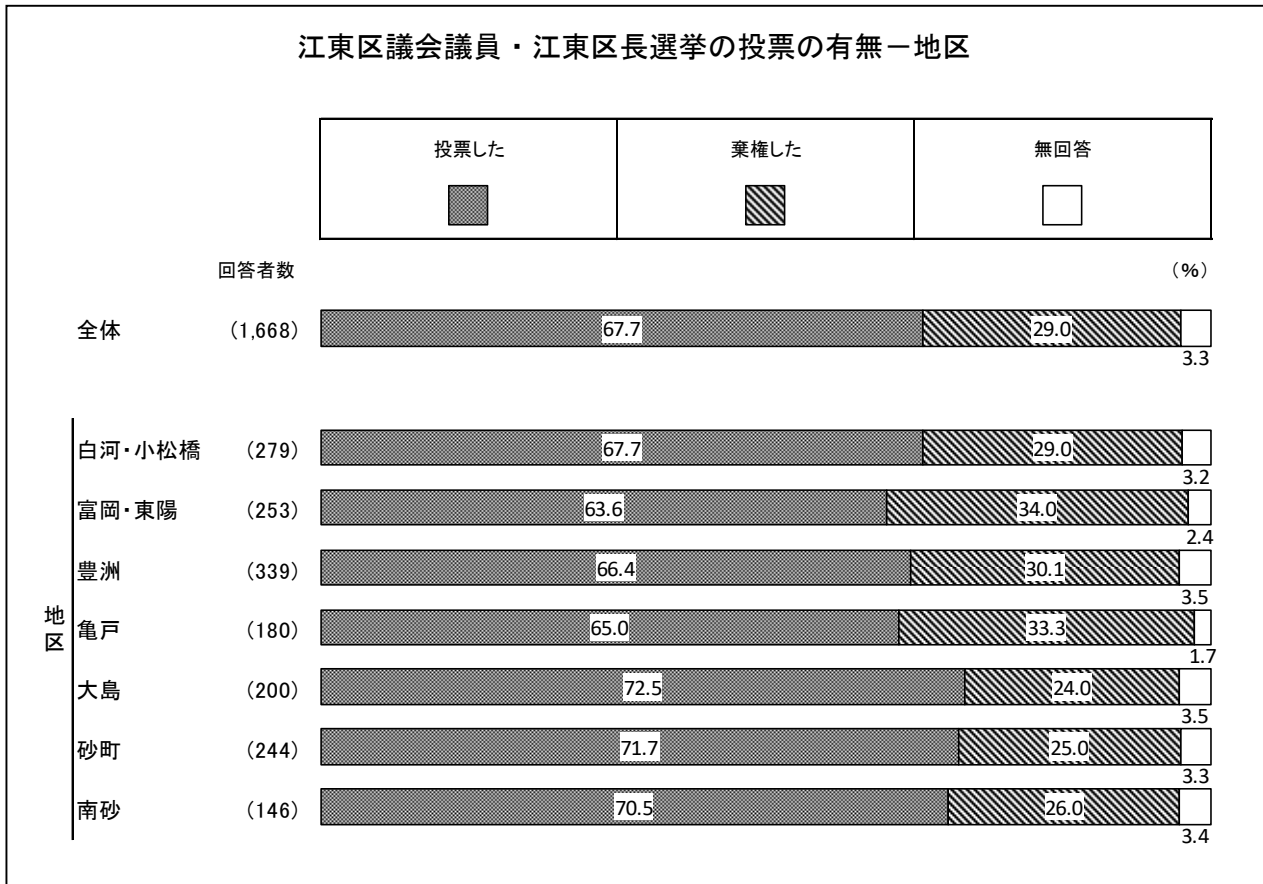
問11	平成31年4月21日は、江東区議会議員・江東区長選挙の投票日でしたが、あなたは投票しましたか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,668)			
1	投票した	67.7%	2 棄権した	29.0%
			無回答	3.3%

平成31年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に投票したか聞いたところ、「投票した」(67.7%)は7割近くとなっている。なお、実際の江東区議会議員選挙の投票率は46.74%、江東区長選挙の投票率は46.72%、平均投票率は46.73%であった。



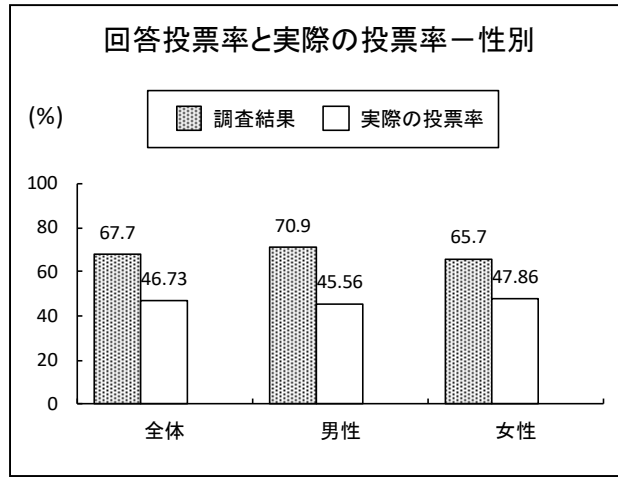
江東区議会議員・江東区長選挙の投票の有無－地区

地区で見ると、「投票した」は大島地区、砂町地区、南砂地区で7割台となっている。一方、「棄権した」は富岡・東陽地区で3割台となっている。



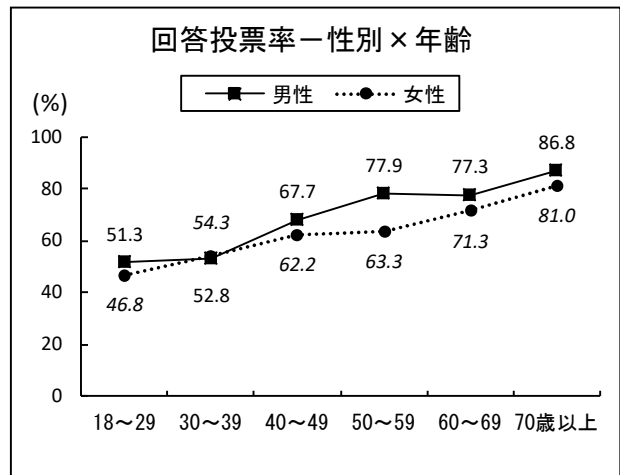
回答投票率と実際の投票率－性別

性別で見ると、大きな差はみられない。
江東区議会議員・江東区長選挙の実際の投票率の平均を見ると、男性 45.56%、女性 47.86%となっている。



回答投票率－性別×年齢

性別×年齢で見ると、50～59歳では男性の方が女性より15ポイント高くなっている。



調査結果による推定投票率－性別×年齢

実際の江東区議会議員・江東区長選挙の平均投票率は46.73%であり、今回の調査結果(67.7%)とは21ポイントの差がある。

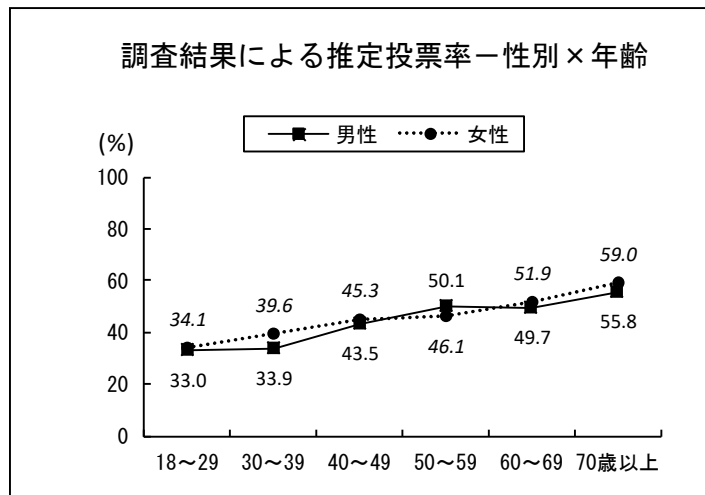
このような形式の質問で、回答が実際の結果と差異が生じることが多いのは、①世論調査の回答者は、世論調査に協力しなかった人に比べて区政への関心度が相対的に高いと考えられ、回答者全体に占める投票した人の割合も高くなると考えられること、②今回の調査の実施が投票日から約2か月経過しているため、記憶が曖昧であった回答者がいると考えられること、の2つの要因が考えられる。これらの要因は世論調査では避けたいものであるが、結果の数値を一定の値としてみる限り、大きな支障はないと考えられる。そこで、性別×年齢による分析を正確にするため、下記の式による補正係数を算出した。

実際の投票率との比較と補正係数

	全 体	■補正係数 = 実際の投票率 ÷ 回答投票率		
調査結果による投票率	67.7 %	男性 0.6426	45.56%	70.9%
実際の投票率	46.73%	女性 0.7285	47.86%	65.7%
		全体 0.6903	46.73%	67.7%

それぞれの性別の補正係数を各年齢層に掛け合わせて、性別×年齢の推定投票率を求めると以下ようになる。なお、グラフ中の数値については、小数点第2位を四捨五入した。

推定投票率をみると、男性20歳代で最も低く33.0%、女性70歳以上で最も高く59.0%となっている。また、男女とも高い年代ほど割合が高くなる傾向にある。

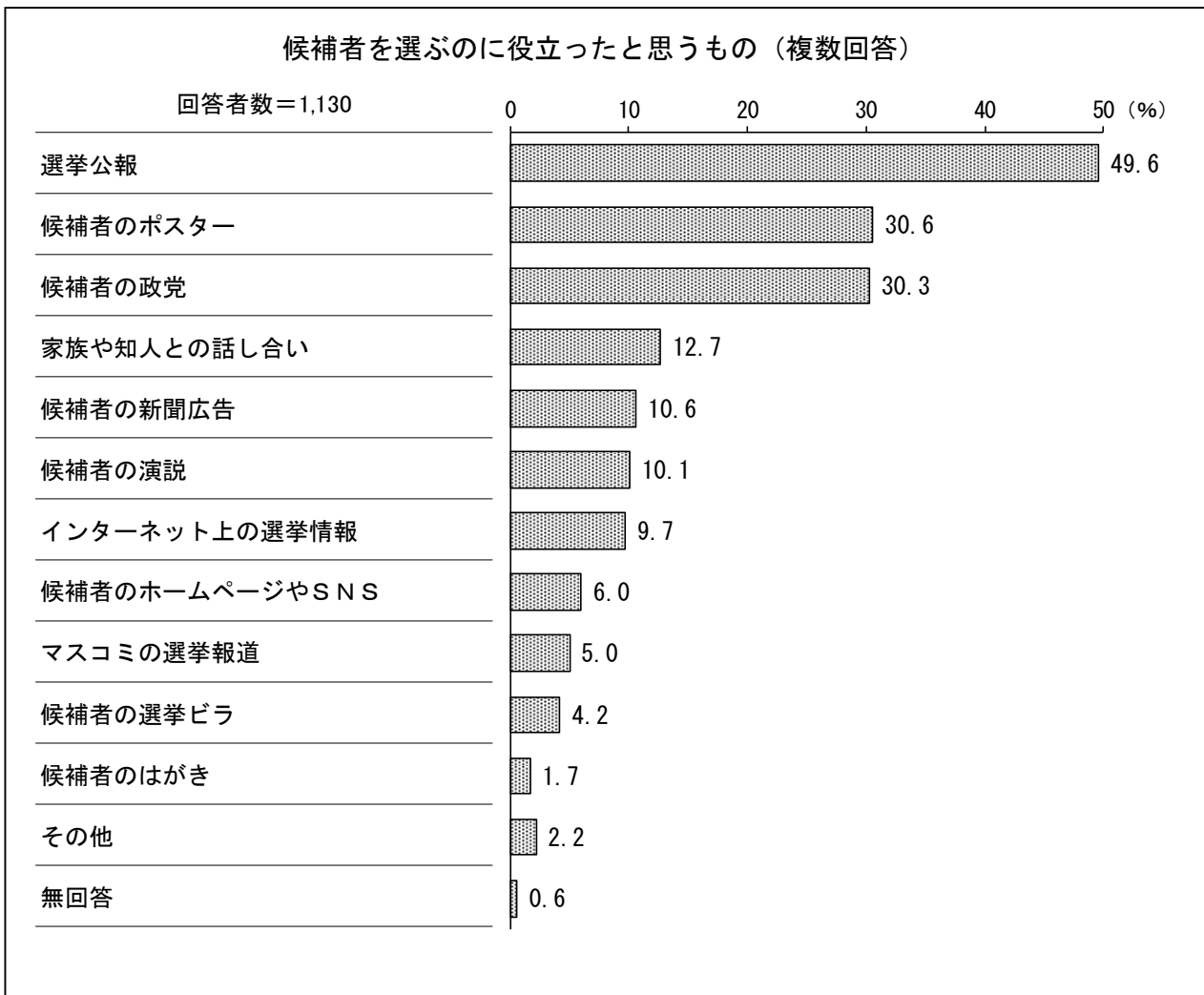


(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

◇「選挙公報」が5割

問11-1		(問11で、「1 投票した」とお答えの方に)		
あなたが、江東区議会議員・江東区長選挙の候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何ですか。次の中から2つまで選んでください。(回答者数=1,130)				
1	選挙公報	49.6%	8 候補者のホームページやSNS	6.0%
2	候補者のポスター	30.6%	9 マスコミの選挙報道	5.0%
3	候補者のはがき	1.7%	10 インターネット上の選挙情報	9.7%
4	候補者の選挙ビラ	4.2%	11 家族や知人との話し合い	12.7%
5	候補者の演説	10.1%	12 その他	2.2%
6	候補者の新聞広告	10.6%	無回答	0.6%
7	候補者の政党	30.3%		

平成31年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「投票した」と答えた方(1,130人)に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」(49.6%)が5割で最も多く、次いで「候補者のポスター」(30.6%)、「候補者の政党」(30.3%)と続いている。



候補者を選ぶのに役立つと思うもの－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「家族や知人との話し合い」は女性の方が男性より3ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「選挙公報」は男性70歳以上、女性40～49歳、女性50～59歳で5割台半ばとなっている。

候補者を選ぶのに役立つと思うもの－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

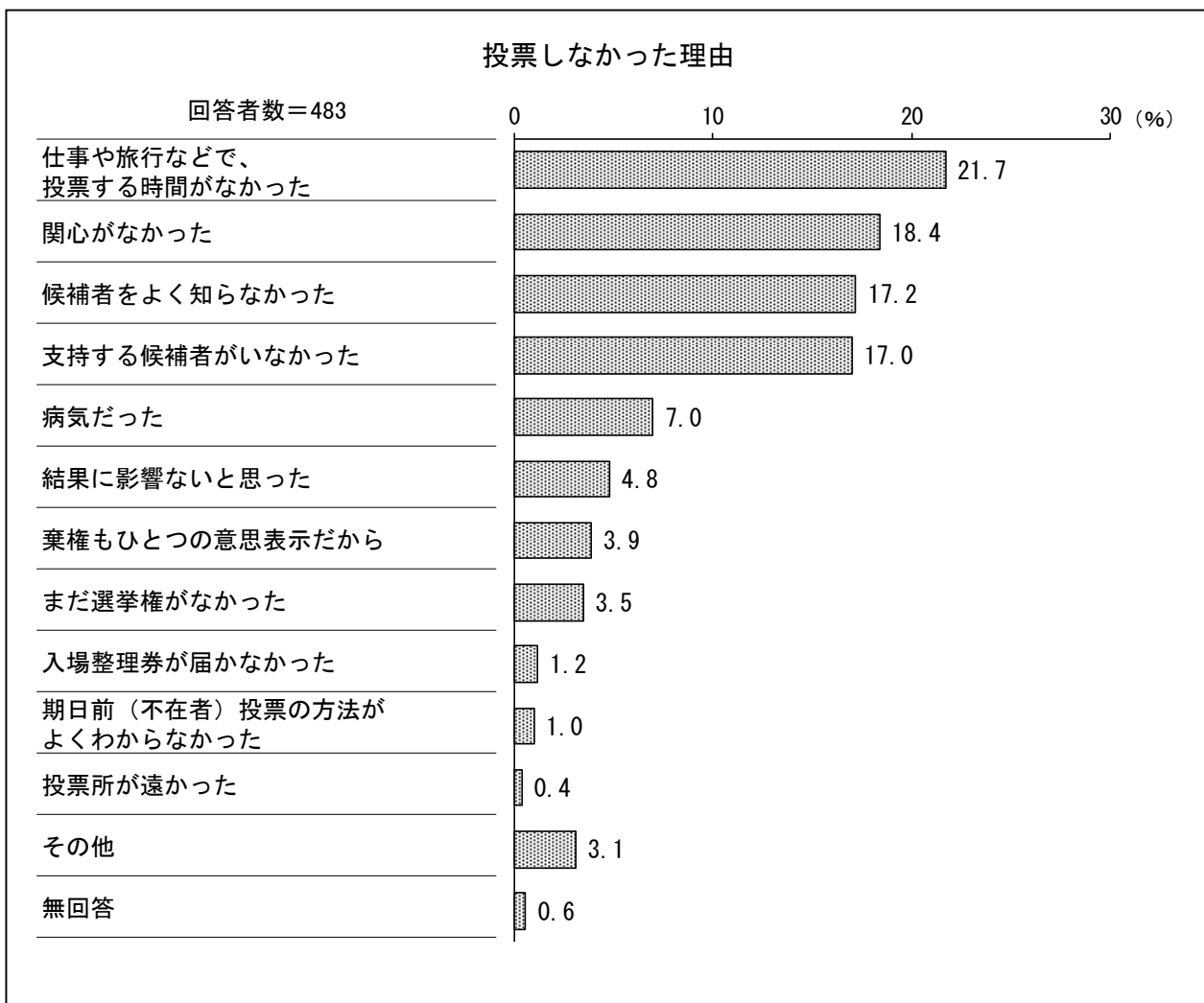
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,130	選挙公報 49.6	候補者のポスター 30.6	候補者の政党 30.3	家族や知人との話し合い 12.7	候補者の新聞広告 10.6
性別	男性	516	選挙公報 48.4	候補者のポスター 32.2	候補者の政党 30.6	インターネット上の選挙情報 12.2	家族や知人との話し合い 11.0
	女性	604	選挙公報 51.0	候補者の政党 29.8	候補者のポスター 29.3	家族や知人との話し合い 14.1	候補者の演説 12.3
年齢	18～29歳	75	選挙公報 45.3	候補者のポスター 33.3	インターネット上の選挙情報 22.7	候補者の新聞広告 18.7	候補者のホームページやSNS／家族や知人との話し合い 12.0
	30～39歳	132	選挙公報 47.7	候補者のポスター 31.1	インターネット上の選挙情報 26.5	候補者の政党 14.4	候補者の新聞広告 10.6
	40～49歳	232	選挙公報 50.9	候補者のポスター 37.9	候補者の政党 20.7	家族や知人との話し合い 12.5	インターネット上の選挙情報 12.1
	50～59歳	208	選挙公報 49.5	候補者のポスター 32.2	候補者の政党 27.4	候補者の新聞広告 12.0	候補者の演説 11.1
	60～69歳	177	選挙公報 47.5	候補者の政党 40.7	候補者のポスター 30.5	家族や知人との話し合い 15.3	候補者の新聞広告 12.4
	70歳以上	295	選挙公報 52.5	候補者の政党 45.4	候補者のポスター 23.1	候補者の演説 16.6	家族や知人との話し合い 14.6
男性×年齢	18～29歳	39	選挙公報 46.2	候補者のポスター 30.8	インターネット上の選挙情報 25.6	候補者の新聞広告 20.5	候補者のホームページやSNS 17.9
	30～39歳	57	選挙公報 47.4	候補者のポスター 43.9	インターネット上の選挙情報 26.3	候補者の政党 15.8	候補者の新聞広告／候補者のホームページやSNS 8.8
	40～49歳	107	選挙公報 44.9	候補者のポスター 35.5	候補者の政党 28.0	インターネット上の選挙情報 16.8	家族や知人との話し合い 11.2
	50～59歳	113	選挙公報 44.2	候補者のポスター 36.3	候補者の政党 27.4	候補者のホームページやSNS 14.2	候補者の演説／インターネット上の選挙情報 12.4
	60～69歳	75	選挙公報 49.3	候補者のポスター 33.3	候補者の政党 33.3	家族や知人との話し合い 13.3	候補者の新聞広告／マスコミの選挙報道 8.0
	70歳以上	125	選挙公報 56.0	候補者の政党 46.4	候補者のポスター 20.0	家族や知人との話し合い 17.6	候補者の演説 11.2
女性×年齢	18～29歳	36	選挙公報 44.4	候補者のポスター 36.1	インターネット上の選挙情報 19.4	候補者の新聞広告／家族や知人との話し合い 16.7	
	30～39歳	75	選挙公報 48.0	インターネット上の選挙情報 26.7	候補者のポスター 21.3	候補者の政党／家族や知人との話し合い 13.3	
	40～49歳	125	選挙公報 56.0	候補者のポスター 40.0	候補者の政党 14.4	家族や知人との話し合い 13.6	候補者の演説 8.8
	50～59歳	95	選挙公報 55.8	候補者のポスター／候補者の政党 27.4		家族や知人との話し合い 14.7	候補者の新聞広告 13.7
	60～69歳	102	選挙公報／候補者の政党 46.1		候補者のポスター 28.4	家族や知人との話し合い 16.7	候補者の新聞広告 15.7
	70歳以上	170	選挙公報 50.0	候補者の政党 44.7	候補者のポスター 25.3	候補者の演説 20.6	家族や知人との話し合い 12.4

(3) 投票しなかった理由

◇「仕事や旅行などで、投票する時間がなかった」が2割を超える

(問11で、「2 棄権した」とお答えの方に)					
問11-2	あなたが、江東区議会議員・江東区長選挙に投票しなかった理由は何ですか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=483)				
1	支持する候補者がいなかった	17.0%	7	投票所が遠かった	0.4%
2	候補者をよく知らなかった	17.2%	8	関心がなかった	18.4%
3	結果に影響ないと思った	4.8%	9	期日前(不在者)投票の方法がよくわからなかった	1.0%
4	棄権もひとつの意思表示だから	3.9%	10	入場整理券が届かなかった	1.2%
5	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった	21.7%	11	まだ選挙権がなかった	3.5%
6	病気だった	7.0%	12	その他	3.1%
				無回答	0.6%

平成31年4月に行われた江東区議会議員・江東区長選挙に「棄権した」と答えた方(483人)に、その理由を聞いたところ、「仕事や旅行などで、投票する時間がなかった」(21.7%)が2割を超えて最も多く、次いで「関心がなかった」(18.4%)、「候補者をよく知らなかった」(17.2%)と続いている。



第4章 調査結果の分析〈5 選挙〉

投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「仕事や旅行などで、投票する時間がなかった」は男性の方が女性より5ポイント高くなっている。一方、「病気だった」は女性の方が男性より3ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「仕事や旅行などで、投票する時間がなかった」は男性40～49歳で割台半ばとなっている。「関心がなかった」は男女とも20歳代で3割となっている。

投票しなかった理由－性別／年齢／性別×年齢（上位5項目）

(%)

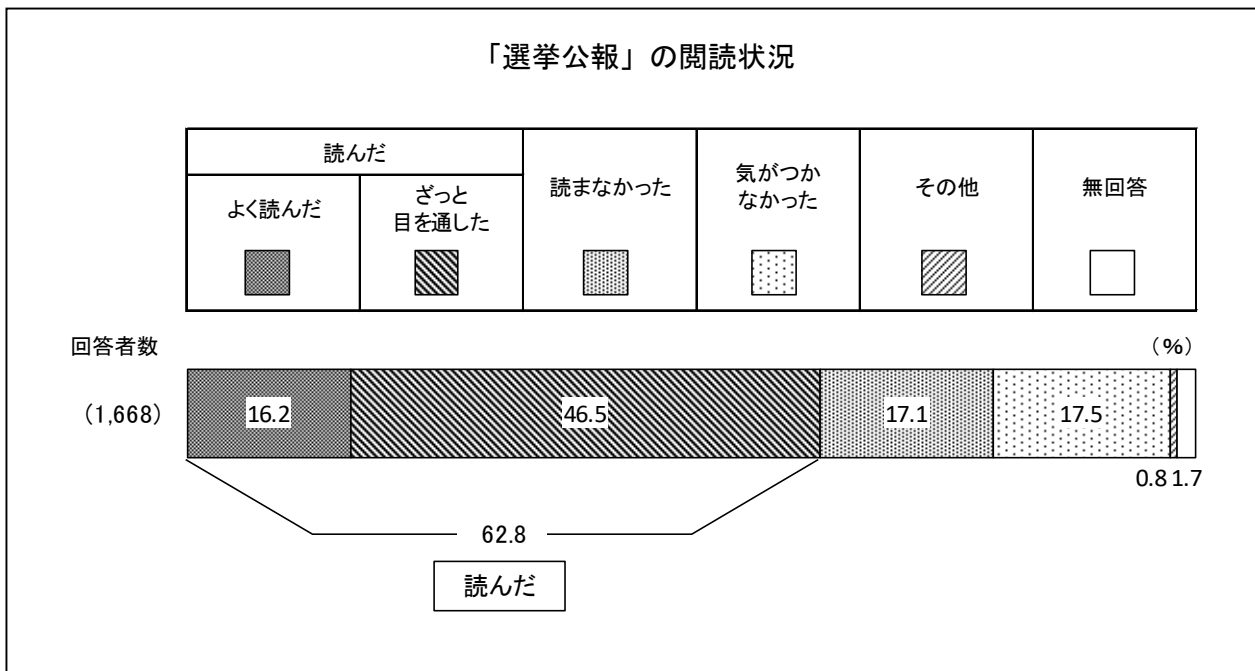
		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位
全体		483	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 21.7	関心がなかった 18.4	候補者をよく知らなかった 17.2	支持する候補者がいなかった 17.0	病気だった 7.0
性別	男性	201	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 24.9	関心がなかった 19.9	支持する候補者がいなかった 17.9	候補者をよく知らなかった 15.9	結果に影響ないと思った 6.0
	女性	276	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 19.6	候補者をよく知らなかった 18.1	関心がなかった 17.4	支持する候補者がいなかった 16.3	病気だった 8.0
年齢	18～29歳	75	関心がなかった 30.7	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 25.3	支持する候補者がいなかった 10.7	候補者をよく知らなかった／まだ選挙権がなかった 8.0	
	30～39歳	110	関心がなかった 22.7	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 21.8	候補者をよく知らなかった 20.9	支持する候補者がいなかった 13.6	病気だった 5.5
	40～49歳	116	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 31.0	支持する候補者がいなかった 15.5	候補者をよく知らなかった 14.7	関心がなかった 13.8	結果に影響ないと思った 8.6
	50～59歳	78	支持する候補者がいなかった 29.5	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 19.2	候補者をよく知らなかった 15.4	関心がなかった 10.3	病気だった 6.4
	60～69歳	55	候補者をよく知らなかった 23.6	支持する候補者がいなかった 21.8	関心がなかった 18.2	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 14.5	病気だった 7.3
	70歳以上	44	候補者をよく知らなかった 25.0	病気だった 18.2	関心がなかった 13.6	支持する候補者がいなかった 11.4	棄権もひとつの意思表示だから／その他 9.1
男性×年齢	18～29歳	37	関心がなかった 29.7	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 27.0	支持する候補者がいなかった 13.5	候補者をよく知らなかった／結果に影響ないと思った／まだ選挙権がなかった 5.4	
	30～39歳	50	関心がなかった 26.0	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 24.0	候補者をよく知らなかった 20.0	支持する候補者がいなかった 16.0	まだ選挙権がなかった 6.0
	40～49歳	50	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 34.0	候補者をよく知らなかった／関心がなかった 16.0	支持する候補者がいなかった 14.0	結果に影響ないと思った 12.0	
	50～59歳	30	支持する候補者がいなかった 23.3	候補者をよく知らなかった／仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 20.0	関心がなかった 10.0	病気だった 6.7	
	60～69歳	20	支持する候補者がいなかった 35.0	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 20.0	候補者をよく知らなかった／結果に影響ないと思った 15.0	病気だった 10.0	
	70歳以上	14	関心がなかった 28.6	候補者をよく知らなかった／病気だった 21.4	支持する候補者がいなかった 14.3	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった／その他 7.1	
女性×年齢	18～29歳	37	関心がなかった 32.4	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 21.6	候補者をよく知らなかった／まだ選挙権がなかった 10.8	支持する候補者がいなかった 8.1	
	30～39歳	60	候補者をよく知らなかった 21.7	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった／関心がなかった 20.0	支持する候補者がいなかった 11.7	病気だった 8.3	
	40～49歳	66	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 28.8	支持する候補者がいなかった 16.7	候補者をよく知らなかった 13.6	関心がなかった 12.1	病気だった 9.1
	50～59歳	48	支持する候補者がいなかった 33.3	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 18.8	候補者をよく知らなかった 12.5	関心がなかった 10.4	病気だった 6.3
	60～69歳	35	候補者をよく知らなかった 28.6	関心がなかった 25.7	支持する候補者がいなかった 14.3	仕事や旅行などで、投票する時間がなかった 11.4	棄権もひとつの意思表示だから／病気だった／その他 5.7
	70歳以上	30	候補者をよく知らなかった 26.7	病気だった 16.7	棄権もひとつの意思表示だから 13.3	支持する候補者がいなかった／その他 10.0	

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」は6割を超える

問12	区の選挙管理委員会では、江東区議会議員・江東区長選挙の「選挙公報」を各戸配布し、また、区内各施設や区内各駅に公報スタンドを設置しましたが、あなたはお読みにになりましたか。次の中から <u>1つだけ</u> 選んでください。(回答者数=1,668)				
1	よく読んだ	16.2%	4	気がつかなかった	17.5%
2	ざっと目を通した	46.5%	5	その他	0.8%
3	読まなかった	17.1%		無回答	1.7%

江東区議会議員・江東区長選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(16.2%)と「ざっと目を通した」(46.5%)の2つを合わせた「読んだ」(62.8%)は6割を超えている。一方、「読まなかった」(17.1%)は2割近く、「気がつかなかった」(17.5%)も2割近くとなっている。



「選挙公報」の閲読状況－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「ざっと目を通した」は女性の方が男性より4ポイント高くなっている。一方、「読まなかった」は男性の方が女性より4ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「読んだ」は男女ともおおむね高い年代ほど割合が高く、女性80歳以上で8割台半ばとなっている。

